"海邦国体"——第42回国民体育大会——

地元 沖縄が大活躍
少年男、女に初優勝



一巡目最後の国民体育大会秋季大会は、"海邦国体"と題して10月25日から沖縄県で開催された。

ハンドボール競技は、10月26日から30日までの5日間、浦添市民体育館、浦添運動公園陸上競技場、東風平町営体育館、具志頭村社会体育館の各会場で開催された。今回は成年男子が全県参加種目であったが、三重（本田技研鈴鹿）が広島（日新製鋼）を降し、初優勝を飾った。成年女子は、大阪（大和銀行）と熊本（立石電機山鹿）という対戦となったが、予想外の大差で大阪が勝ち、大和銀行としては初優勝（大阪としては成年女子となっては初優勝だが、一般女子の頃に7回優勝している）を飾った。

少年の部は、男女とも地元・沖縄が大声援を受けて健闘、見事に男女共に初優勝を飾った。

成年男子

◆1回戦

富山 27（15−9, 12−16）25 岐阜
（全富山）（岐阜教員）

〔戦評〕立ち上がり岐阜は、飯島のサイドシュートなどで3−1とリードしたが、富山はGKの好守や中浦の広いディフェンスなどでボールをカットし、次々に速攻に結びつけた。その後、富山は金原のロングやフェイントからのシュートがよく決まり、15−9で前半を終了した。後半、岐阜は富山のパスミス、キャッチミスにつけ込み、名倉、上野の速攻や、ようやく調子がでてきた加藤のロングシュートで3点差まで追い上げた。両チームともミスが多いためスタミナをロスしていたようだ。攻撃に幅のある富山にやや分があった。（切通）

	〔岐阜〕	得
GK	野田	0
	田中	0
FP	名倉	1
	加藤隆	1
	飯島	7
	牧野	1
	木田	0
	加藤元	8
	鈴木	0
	上野	3
	西尾	0
	高橋	4
PT	(1)	25

	〔富山〕	得
GK	水谷	0
	広上	0
FP	越前	5
	金原	9
	小坪	2
	山崎	2
	中山	2
	栗山	1
	指崎	2
	中浦	3
	上田	0
	秀永	1
PT	(2)	27

（審・友寄、大城）

石川 41（25−10, 16−12）22 長崎
（全石川）（佐世保ク）

〔戦評〕試合開始より両チーム共個人プレーで単発的に得点を加え展開していたが、15分経過頃より石川チームはコンビネーションが合い始め古橋、藤井が連続ゲット22分には6点差とする。一方、佐世保は井村、馬場の個人プレーのみでのゲットで対抗するが10点の大量差で前半終了。

後半もまったく前半のゲーム展開同様で、全員が良く走った上、総合力に勝る石川が41−22との大差をつけて佐世保を一方的に下した。（福田）

	〔佐世保〕	得
GK	金子	0
	福田	0
FP	田添	2
	松永	6
	加納	1
	山高	3
	出口	1
	井村	3
	馬場	6
	村島	0
	橋本	0
	岡田	0
PT	(0)	22

	〔石川〕	得
GK	竹中	0
	中村	0
FP	橋本	1
	黒田	1
	西田	4
	古橋	5
	藤井	7
	真田	5
	酒井	4
	中田	1
	北岡	5
	土山	8
PT	(0)	41

（審・野中、伊藤）

茨城 29（13−12, 16−9）21 和歌山
（茨苑ク）（県和商ク）

〔戦評〕前半は互角の試合展開で終わる。後半は、茨城が残り10分ぐらいから松信、久保田などの速攻により次第に点差を広げて逃げ切った。

前、後半を通じて少し荒っぽい試合のようであった。（萬場）

〔和歌山〕	得		〔茨城〕	得
今宮	0	GK	雨谷	0
			本多	0
中村	3	FP	福田(弘)	5
甲斐	2		浜野	3
大石(哲)	2		福田(理)	1
福本	0	（審・上原 大城）	黒岩	3
松下	7		高野	5
南	2		松信	2
大石(広)	2		北村	0
山下	0		久保田	7
泉屋	3		緑川	1
村田	0		富永	2
(2)	21	PT	(2)	29

京都 34 〔18−6 16−13〕 19 北海道
（京都ク）（函館有斗ク）

〔戦評〕京都が立ち上がり、北海道のミスを速攻につなぎ、10分には8－1と試合を優位に進めた。その後京都もパスミス、シュートミスが多くペースをつかみきれない感じであったが、走力に勝る京都は連続して速攻を決め前半18－6で終了。後半に入り、北海道もポスト、ミドルシュートで健闘したが、地力に勝る京都が振り切った。（赤地）

〔北海道〕	得		〔京都〕	得
小松	0	GK	山下	0
奥村	0		宇佐見	0
兼田	0	FP	国府	3
福士	2		佐久間	3
川口	1		楠本	6
木村	2	（審・船越 楠戸）	今村	1
岡田	2		池辺	2
佐久間	0		西田	4
高橋	7		西村	4
鈴木	3		三幸	2
高桑	2		桐本	8
			清水	1
(0)	19	PT	(1)	34

兵庫 43 〔24−11 19−12〕 23 徳島
（スワロー兵庫）（池田ク）

〔戦評〕白井の得点で先行した池田クラブ、サイドから再三チャンスをつかみシュートするが得点ならず、一方スワロー兵庫は、GK近藤のワンパスを走りまくる岡辺、寺口につなぎ連続得点、前半を24－11で終了。後半スワロー兵庫の的場、浜田、今井の得点に対して池田クラブは山下がチャンスをつくりよく得点するが、一歩およばず敗れ去る。（友寄）

〔徳島〕	得		〔兵庫〕	得
曽根	0	GK	近藤	0
土居	0		狩野	0
白井	5	FP	浜田	3
山下	9		的場	4
三木	3		大西	6
豊田(昌)	0	（審・大村 切通）	松岡	4
竹谷	1		竹内	3
坂本	0		岡辺	6
豊田(能)	0		西園	0
国安(寿)	2		今井	7
国安(達)	2		堀尾	0
秋田	1		寺口	10
(2)	23	PT	(2)	43

山梨 32 〔16−9 16−15〕 24 宮崎
（日川ク）（全宮崎）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チーム共早い動きで攻防を展開。15分過ぎよりややディフェンスの動きが止まったところを日川がロングとポストをおりまぜて着々加点、前半を16－9とリード。後半、宮崎もよく走り健闘するが、前半の失点が大きく、涙を飲んだ。（野中）

〔宮城〕	得		〔山梨〕	得
和田	0	GK	菊島(功)	0
石原	0		辻	0
押川(幸)	5	FP	武島	4
甲斐	1		関口	4
渡辺	3		古屋	9
有田	0	（審・中本 福田）	佐藤(建)	1
江藤	0		佐藤(茂)	0
富永	5		菊島(裕)	5
押川(啓)	1		広瀬	2
曽原	0		窪川	0
木切倉	4		中沢	7
船木	5		代永	0
(1)	24	PT	(4)	32

秋田 33 〔15−13 18−15〕 28 新潟
（湯沢ク）（全新潟）

〔戦評〕パワーのある湯沢クに、気力十分の全新潟が挑んだ試合は前半は、どちらも譲らず互角に戦っていたが、後半にはいり、湯沢クのベテラン勢の活躍で、ジワリジワリとリードを広げていった。しかしこの試合、両チーム共、パス、キャッチミスが非常に目立ったのは残念だった。（大城）

〔新潟〕	得		〔秋田〕	得
青木	0	GK	吉田	0
水内	0		石山	0
山川	2	FP	高山	1
苅部	5		高橋	3
山沢	3		古関	2
三谷	1	（審・萬場 里）	菅野	2
矢島	3		近野	2
片山	6		佐々木	3
若月	0		渡部	4
阿部	0		半田	7
斉藤	7		斉藤	4
水沢	1		佐藤	5
(1)	28	PT	(5)	33

島根 23 〔9−11 14−11〕 22 福島
（江津ク）（福島ク）

〔戦評〕速攻主体の似通ったタイプの両チームではあったが、共にミスが多く得点に結びつかなかった。福島2点差で前半終了。後半福島がメンバーを変更したすきに島根がPT、速攻で追いつき一進一退の攻防を続けた。島根GKの活躍で勝利をえた。（船越）

〔福島〕	得		〔島根〕	得
福島	0	GK	佐藤	0
佐藤(信)	0		奥川	0
斉藤(剛)	4	FP	斉藤	3
佐藤(成)	0		山本	1
斉藤(仁)	0		浴元	0
小沼	1	（審・古冨 赤地）	小松原	3
田川	7		浅原	2
根本	0		石倉	0
遠藤	7		藤原	0
永久保	1		野津	1
後藤	0		奥谷	8
上野	2		徳田	5
(3)	22	PT	(2)	23

鳥取 27 〔11−8 16−16〕 24 岩手
（境港ク）（花巻ク）

〔戦評〕前半5分で3－1と鳥取先手リード。警告、退場が目立つ荒々しい試合展開の中、鳥取のサイドシュートに対して、岩手のポストプレーで11－8と2点差のまま終了。後半、残り2分まで2点差のシーソーゲーム、最後岩手・中島のロング、吉田のサイドで1点差まで迫ったが、鳥取・望月のポストプレーなどで引き離し逃げ切った。（大村）

〔岩手〕	得		〔鳥取〕	得
佐々木	0	GK	足川	0
佐藤	0		桑本	0
谷川	3	FP	西村	1
中島	4		望月	3
及川	6		田中	6
山口	0	（審・友寄 大城）	古賀	3
大沢	1		児玉	10
吉田	3		荒木	0
森田	0		松井	3
谷藤	5		仁志	0
小田中	1		小沢	1
岩角	1		六車	0
(0)	24	PT	(4)	27

愛知 29 〔13−7 16−12〕 19 山形
（トヨタ自動車）（山形ク）

〔戦評〕立ち上がり、愛知にミスが目立ち、そのすきをついて山形が健闘する。10分過ぎあたりより愛知がリズムをつかみ、ミドル、速攻などで加点し、6点差で前半を終了する。後半に入っても、愛知はポスト、速攻、ミドル、サイドなど多彩な攻撃で加点する。山形が後半に見せた縦への動きが前半から出ていればと思う。山形のGKの健闘が光る。（中本）

〔山形〕	得		〔愛知〕	得
佐藤(功)	0	GK	中西	0
横瀬	0		西井	0
鎌田	3	FP	香井	7
佐藤(正)	4		川田	4
加藤	0		相本	4
瀧浪	0	（審・中野 伊藤）	堀江	4
高橋	0		酒井	0
阿部	2		中西	5
伊藤	4		松尾	0
叶内	4		乙子	1
梁瀬	1		坂口	3
沓沢	1		平野	1
(3)	19	PT	(0)	29

岡山 40 〔18−15 22−16〕 31 香川
（全岡山）（讃岐ク）

〔戦評〕前半、香川が先行し、岡山が追いかける試合展開で始まったが、中頃岡山が速攻から連続得点で逆転する。後半は岡山が早い

〔香川〕	得		〔岡山〕	得
石脇	0	GK	板野(清)	0
宮地	0		藤井	0
松原	10	FP	中山	8
亀井	12		上野	13
久保	1		丸川	1
谷口	5	（審・上原 大城）	赤木	0
泉谷	1		西田	1
中村	0		大塚	3
渡辺	2		荒井	1
今田	0		佐藤	2
宇治	0		平野	3
西山	0		板野(守)	8
(5)	31	PT	(1)	40

テンポで攻撃し、香川も追いかけるがおよばず岡山の勝利となる。（里）

長野（全長野）24 〔12－11／12－11〕 22 **福岡**（福岡教員）

〔戦評〕立ち上がりは両チーム共固さがあり、シュートミス、パスミスが目立った。中盤からお互いにミスに乗じ得点を重ね出し、長野が岩下の巧技などでわずかに1点リードして折り返す。後半、すぐに福岡が逆転し、2点差で進むが長野も盛り返し20分に21－21の同点になる。4分間両チーム共無得点であったが、24分長野・行田が相手パスをインターセプトし速攻で再度逆転、さらに加点し終了する。長野の巧さが福岡の若さを上回った。（古富）

得	長野		福岡	得
0	片桐	GK	七條	0
0	北島	GK	水上	0
0	竹内	FP	野田	5
1	塩川(亮)	FP	藤田	2
8	矢島	FP	坂本	4
2	行田	FP	吉村	4
0	渡辺	FP	稲永	0
0	青木	FP	平野	7
3	小山	FP	沖西	0
0	塩川(源)	FP	白木	0
4	岩下	FP	古賀	0
6	鳥屋	FP	前田	0
		（審・楠戸・船越）		
24	(0)	PT	(2)	22

愛媛（愛媛選抜）34 〔21－13／13－15〕 27 **青森**（全青森）

〔戦評〕試合開始直後青森は、足を生かしミドルシュート、速攻と得点を決めるが、愛媛もポスト、速攻と得点を決め、25分には一進一退となるが、残り3分青森は速攻、ペナルティースローを確実に決め、前半青森の2点リードで終了する。後半に入るとすぐ愛媛が同点に追いつき、その後も青森のミスを生かし確実に得点を重ね愛媛が勝利した。（大城）

得	愛媛		青森	得
0	中村	GK	藤川	0
0	塩田	GK	鈴木	0
6	田中	FP	町屋	1
6	定岡	FP	柳谷	1
5	金子	FP	佐々木	10
4	東福	FP	藤本	6
0	塩崎	FP	横山	0
4	上野	FP	工藤	4
0	川田	FP	葛西	0
3	芝	FP	石田	1
6	今井	FP	三上	2
0	佐藤	FP	小笠原	2
		（審・大村・切通）		
34	(4)	PT	(2)	27

千葉（千葉教員）31 〔16－13／15－14〕 27 **奈良**（わかくさク）

〔戦評〕奈良はGKの好守と金丸のロングシュートなどで得点を重ねて行ったが、中盤より千葉は奈良のエース金丸にマンツーについてからようやくペースをつかみ、両チーム共点の取り合いとなり15－14千葉1点のリードで折り返す。後半に入り、奈良は速攻とサイドシュートで加点、一方、千葉は長身を生かしてのロングシュート、ポストプレーで加点し、シーソーゲームとなったが、31－27で千葉が勝利をものにした。（楠戸）

得	千葉		奈良	得
0	塩原	GK	柿木	0
		GK	小野	0
0	山上	FP	佐川	3
6	仲村	FP	阪本	0
9	松井	FP	増田	0
10	仲田	FP	小林	5
0	植村	FP	上田	2
0	寺田	FP	金丸	7
2	大鐘	FP	村田	6
3	飯名	FP	菅沼	0
0	加藤	FP	谷	4
1	安井	FP	田中	0
		（審・赤地・古富）		
31	(1)	PT	(2)	27

大分（大電会）36 〔14－16／17－15／2－3／3－2〕 36 **神奈川**（全神奈川）
PTC 3－2

〔戦評〕大分は後藤、二宮の速攻などで加点し、波に乗るかに見えたが、神奈川も千葉のロング、黒沢のカットインなどが良く決まり逆転に成功、16－14で前半を終了する。後半に入り大分のGKの好守が光り良く追い上げ、再逆転に成功したが神奈川も良く粘り31－31で延長戦に入る。延長戦も5－5で勝負がつかずPTCの結果3－2で大分が勝つ。（上原）

得	大分		神奈川	得
0	大久保	GK	吉田	0
0	藤内	GK	佐藤	0
2	渡辺	FP	笙場	3
5	足立	FP	黒沢	7
2	甲斐	FP	藤野	0
0	竹下	FP	尾形	3
3	二宮	FP	海老原	6
4	工藤	FP	守谷	6
7	後藤	FP	貴船	0
5	朝来	FP	鈴木	2
3	山地	FP	千葉	5
5	篠田	FP	斉田	4
		（審・里・萬場）		
36	(3)	PT	(1)	36

◆2回戦

埼玉（大崎電気）37 〔15－22／22－16〕 28 **富山**

〔戦評〕埼玉は大和田の速攻で先制、その後、宮下のロング、松岡のサイド等多彩な攻撃で確実に得点を重ね、20分までに17－5でリード、富山は20分過ぎからようやくエンジンがかかり、金原のサイド、ポストと得点するが、22－12で埼玉のリードで折り返す。後半、ディフェンスの足が止まった埼玉に対し、リズムをつかんだ富山は越前のロング、金原のポストと得点を重ね20分までに6点差まで追い上げたが、埼玉がどうにか逃げ切った。ゲームとしては富山の善戦が光った。（森山）

得	埼玉		富山	得
0	渡辺	GK	水谷	0
0	矢内	GK	広上	0
5	松岡	FP	越前	5
3	大和田	FP	金原	8
3	武田	FP	小坪	1
8	首藤	FP	山崎	1
1	中田	FP	中山	5
1	山本	FP	栗山	3
0	越迫	FP	指崎	1
3	菅田	FP	中蒲	4
0	相場	FP	上田	0
13	宮下	FP	秀永	0
		（審・高良・宮元）		
37	(3)	PT	(3)	28

熊本（本田技研熊本）38 〔17－21／21－13〕 23 **宮城**

〔戦評〕立ち上がりから、熊本は速い動きでディフェンスをかいくぐり、荒田、三代、川崎の連続シュートで試合の主導権を握る。それに対し、宮城は尾形のサイドシュート、菅井の連続ゴールで追い上げ21－10で前半終了。後半は、一進一退のゲームが続くが、前半の失点を返すことができず試合終了。熊本のスピードが際立った試

合だった。（高良）

	〔宮城〕	得	〔熊本〕	得
GK	佐藤	0	中尾	0
GK	秋葉	0	板本	0
FP	桜井	0	田中	2
FP	小野	0	山口	3
FP	菅井	7	長野(透)	7
FP	小西	2	佐伯	2
FP	弓場	2	長野(一)	7
FP	蛇石	0	斉所	1
FP	加藤	4	荒田	4
FP	小野寺	0	三代	5
FP	荒川	2	松村	1
FP	尾形	6	川崎	6
PT	(2)	23	(3)	38

（審・高橋・森山）

佐賀 27（佐賀選抜）〔12－11 / 15－11〕22 兵庫

〔戦評〕双方のディフェンスが固くロースコアーの展開、ようやく12分過ぎから佐賀が速攻で加点、リードが広がるかに見えたが兵庫もセットで応戦、前半12－11佐賀リードで終了。

後半も佐賀ベテラン小松のステップと前半同様、速攻で着々と得点を重ね、佐賀優勢のうちに試合終了。（高橋）

	〔兵庫〕	得	〔佐賀〕	得
GK	近藤	0	野口	0
GK	狩野	0	田中	0
FP	浜田	3	井手	0
FP	的場	4	志岐	2
FP	大西	1	羽立	3
FP	松岡	3	石丸	3
FP	竹内	3	小松	5
FP	岡辺	5	中原	6
FP	西園	0	白木	1
FP	今井	2	境	5
FP	堀尾	0	磯口	2
FP	寺口	1	野口	0
PT	(5)	22	(2)	27

（審・高良・宮元）

鳥取 32 〔12－17 / 13－8 / 5－1 / 2－3〕29 群馬（あかぎク）

〔戦評〕立ち上がりは、セットの攻防となったが、鳥取がロングシュートをはずしたのに対して、群馬は岡田のサイドシュート、高梨のステップシュートで加点し、前半10分で5－2とリードした。その後鳥取は、児玉のロングシュートと古賀のステップシュートで反撃したが、結局前半は17－12で群馬がリードした。後半鳥取は、フォーメーションと速攻で追いつき25－25で延長に入った。延長7－4で鳥取の勝利。（宮元）

	〔群馬〕	得	〔鳥取〕	得
GK	譲原	0	足川	0
GK	野口	0	桑本	0
FP	高梨	11	西村	0
FP	越石	0	望月	1
FP	上原	0	田中	7
FP	今井	2	古賀	5
FP	長谷川	1	児玉	15
FP	岡田	5	荒木	2
FP	栗田	4	松井	1
FP	新井	4	仁志	0
FP	小金沢	0	小沢	1
FP	寺山	2	六車	0
PT	(0)	29	(5)	32

（審・森山・高橋）

栃木 34（栃の葉ク）〔17－9 / 17－13〕22 愛媛

〔戦評〕前半開始10分まで栃木は武井、中山、滝口らの攻めで11－3と愛媛をリード。しかし15分過ぎより気のゆるみから雑になり愛媛に逆速攻を許し、23分には13－8。それでも薄井の速攻、小西のポスト、滝口のロングで前半17－9で終了。後半に入り、栃木は岸のサイドシュートが3連続決まり試合の主導権を握る。愛媛も金子、東福のロング、ミドルで応酬するが多彩な攻めで着実に加点した栃木が34－22で勝利した。（大城）

	〔愛媛〕	得	〔栃木〕	得
GK	中村	0	岩下	0
GK	塩田	0	高瀬	0
FP	田中	4	山下	8
FP	定岡	3	山本	0
FP	金子	5	川田	1
FP	東福	6	武井	5
FP	塩崎	1	溥井	3
FP	上野	0	岸	5
FP	川田	0	滝口	6
FP	芝	0	小西	3
FP	今井	3	大出	1
FP	佐藤	0	中山	2
PT	(1)	22	(1)	34

（審・仲里・屋嘉部）

石川 27 〔13－16 / 14－10〕26 滋賀（全滋賀）

〔戦評〕双方共に大型チームにふさわしくセットでの激しい攻防をくり返し、前半25分過ぎまで10－10の同点。27分、滋賀・能波のステップシュートでリードを奪い井上の連続サイドシュートで3点差に広げ、16－13で前半終了。後半に入っても、お互いに一進一退の攻防を続けるが、20分石川・真田の同点シュート、23分橋本の速攻でついに逆転、気力が充実している石川が1点リードを守り切ってこのゲームを制した。（仲里）

	〔滋賀〕	得	〔石川〕	得
GK	石田	0	竹中	0
GK	太田	0	中村	0
FP	位田	1	橋本	3
FP	伊藤	8	黒田	0
FP	能波	8	西田	1
FP	井上	7	古橋	1
FP	武田	0	藤井	3
FP	大野	1	真田	10
FP	橋山	0	酒井	0
FP	大橋	1	中田	0
FP	西尾	0	北岡	3
FP	林田	0	土山	6
PT	(3)	26	(1)	27

（審・大城・知念）

山梨 27 〔12－10 / 15－11〕21 山口（山口教員団）

〔戦評〕前半、両チーム共固さからか、パスミスやノーマークミスが目立ち、20分まで山梨の8－7と低い得点の立ち上がりであった。その後もミスは減らず、サイド、ポスト、ミドルとうまく攻めた山梨が12－10とリードして前半を終了した。後半、山口は2分に岡村の速攻で12－12と追いつき、その後山口は速攻、山梨はポストプレーで攻め合い12分まで17－17と互角、その後山口にミスが出た所を山梨が5連続シュート。山口もスカイプレーで追いすがるが、シュートに的確さを欠き、27－21で山梨が勝利。（知念）

	〔山口〕	得	〔山梨〕	得
GK	吉村	0	菊島(功)	0
GK	加藤	0	辻	0
FP	河村	0	武藤	6
FP	岡村	1	関口	3
FP	吉兼	3	古屋	3
FP	角	7	佐藤(建)	1
FP	片山	0	佐藤(茂)	0
FP	石井	3	菊島(裕)	5
FP	中村	4	広瀬	4
FP	重宗	0	窪川	1
FP	飯島	3	中澤	4
FP	山崎	0	代永	0
PT	(3)	21	(5)	27

（審・仲里・屋嘉部）

広島 31（日新製鋼）〔11－7 / 20－9〕16 愛知

〔戦評〕立ち上がり、両チーム共攻撃のミスとGKの好守でなかなか得点できなかったが、5分過ぎより日新が着実に得点を重ね11－7で前半を終了。後半に入っても日新がミドル、ロング、速攻で加点し、粘るトヨタを振り切った。（屋嘉部）

	〔愛知〕	得	〔広島〕	得
GK	中西(哲)	0	西川	0
GK	西井	0	森田	0
FP	香井	5	森	1
FP	川田	0	武田	3
FP	相本	2	西山	7
FP	堀江	1	高木	6
FP	酒井	3	甲斐	2
FP	中西(孝)	1	藤井	3
FP	松尾	0	日野	3
FP	乙子	1	堀田	4
FP	坂口	3	野中	0
FP	平野	0	一瀬	2
PT	(1)	16	(4)	31

（審・大城・知念）

沖縄 38（浦添ク）〔20－8 / 18－8〕16 茨城

〔戦評〕沖縄の固いディフェンスとGK新垣の好守で開始早々、東江、新垣、喜舎場、名嘉、上原の速攻が連続して決まり沖縄ペースで進行した。茨城は、富永のロング、カットインを中心に応戦するが20－8の大差で前半を終了。後

	〔茨城〕	得	〔沖縄〕	得
GK	雨谷	0	新垣(泰)	0
GK	本多	0	玉城	0
FP	福田(弘)	1	黒島	1
FP	浜野	2	高良	3
FP	福田(理)	0	名嘉	6
FP	黒石	0	新垣(志)	4
FP	高野	2	宮城	1
FP	松信	0	上原	5
FP	北村	1	内原	2
FP	久保田	1	新里	0
FP	緑川	3	喜舎場	4
FP	富永	6	東江	5
PT	(3)	16	(4)	38

（審・萬場・里）

半に入っても、沖縄チームの足は衰えず、加えてコンビプレーも決まり全員得点で茨城に圧勝、沖縄チームの走りとGK新垣の好守が光る試合であった。（南）

秋田 34 〔21－16／13－9〕 25 静岡（清商ク）

〔戦評〕前半、静岡の岡崎、望月の速攻などで一時は静岡ペースで試合は展開するかと思われたが、シュートミスなどが目立つ中、秋田のロング、カットプレーなどで反対に秋田ペースとなり、13－9で4点リードの内に終わった。後半は、両チーム共に荒っぽさが見られる試合展開であるなか、たえず秋田チームのリードの内に終わった。（萬場）

	〔静岡〕	得	〔秋田〕	得
GK	鷲巣	0	吉田	0
GK	小野田	0	石山	0
FP	赤堀	2	高山	4
FP	望月(紀)	3	高橋	2
FP	望月(司)	6	古関	3
FP	稲葉	0	菅野	1
FP	茂津目	4	近野	0
FP	岡崎	2	佐々木	4
FP	桜田	5	渡部	2
FP	鈴木	1	半田	6
FP	梅林	0	斉藤	2
FP	名倉	2	佐藤	10
PT		(1)		(4)
		25		34

（審・大城　南）

福井（全福井） 36 〔19－17／17－15〕 32 岡山

〔戦評〕試合開始直後、福井・田中がパスカットから速攻で得点。その後、岡山・上野のシュートで同点、両チーム共スピーディーなゲームを展開、前半は福井のディフェンスが良く17－15で折り返す。後半も同様なパターンのゲーム展開、両チーム共最後までスピードが落ちず一進一退の展開を見せたが、ディフェンス力の勝った福井が逃げ切った。（大城）

	〔岡山〕	得	〔福井〕	得
GK	板野(清)	0	柴田	0
GK	藤井	0	川村	0
FP	中山	7	竹野	4
FP	上野	7	半田	6
FP	丸川	1	五十嵐	0
FP	赤木	1	土橋	1
FP	西田	0	小林	7
FP	大塚	0	谷口	5
FP	荒井	2	松山	2
FP	佐藤	6	宮川	0
FP	平野	0	田中	11
FP	板野(守)	8	川上	0
PT		(3)		(1)
		32		36

（審・萬場　里）

大阪（大阪イーグルス） 40 〔21－16／19－13〕 29 大分

〔戦評〕前半中頃まで両チーム互角に戦うも、大阪は辻本を中心としたパス廻しから、ポスト、サイドで得点し、また、相手のミスを速攻につなぎ6点リードする。後半、大分はシュートミスが多く、逆に大阪に速攻につながれて追いつくことができなかった。（里）

	〔大分〕	得	〔大阪〕	得
GK	大久保	0	信貴	0
GK	藤内	0	太田	0
FP	渡辺	2	勝本	2
FP	足立	0	源野	4
FP	甲斐	4	成瀬	3
FP	竹下	2	大西	2
FP	二宮	4	三谷	2
FP	工藤	0	厚ケ瀬	1
FP	後藤	6	小松	2
FP	朝来	7	岩本	7
FP	山地	2	辻本	14
FP	篠田	2	高橋	3
PT		(3)		(1)
		29		40

（審・大城　南）

東京（三陽商会） 28 〔15－13／13－13〕 26 京都

〔戦評〕前半、両チーム共譲らず1点差、同点をくり返す好ゲームであった。後半に入り、京都のディフェンスが乱れ始め、東京に徐々に点を入れられた。あせった京都はオフェンス面でも歯車が狂い始め、無理な攻め（チャージング等）が目立つようになった。終盤盛り返したが、着実に得点を重ねた東京が逃げ切った。（大城）

	〔京都〕	得	〔東京〕	得
GK	山下	0	宇田川	0
GK	宇佐見	0	吉田	0
FP	国府	3	関	3
FP	佐久間	1	清家	6
FP	楠本	9	田口	1
FP	今村	6	吉原	0
FP	池辺	1	砂川	2
FP	西田	0	山口	5
FP	西村	5	浜田	9
FP	三幸	0	大塚	2
FP	桐木	1	安藤	0
FP	清水	0	河村	0
PT		(3)		(3)
		26		28

（審・楠戸　船越）

鹿児島（鹿児島ク） 34 〔19－13／15－13〕 26 島根

〔戦評〕島根・徳田、鹿児島・池之上を中心に同じようなチームカラーのため、エキサイトしラフプレーが目立った。前半は池之上、後半は徳田、池之上にマンツーマンでディフェンスをしたが、他選手の展開力に勝る鹿児島が徐々に点差を広げた。島根も野津、奥谷の頑張りで追ったが、今一歩およばなかった。退場が多くやや興味をそいだ。（船越）

	〔島根〕	得	〔鹿児島〕	得
GK	佐藤	0	西	0
GK	奥川	0	石原	0
FP	斉藤	0	馬場口	2
FP	山本	1	平山	4
FP	浴元	0	亀沢	4
FP	小松原	1	安田(茂)	1
FP	浅原	2	安田(三)	8
FP	石倉	0	有村(隆)	1
FP	藤原	0	有村(豊)	1
FP	野津	5	池之上	12
FP	奥谷	4	山川	0
FP	徳田	13	富山	1
PT		(4)		(6)
		26		34

（審・大城　上原）

長野 31 〔15－12／16－6〕 18 高知（高知ク）

〔戦評〕立ち上がりから、高知は攻撃に鋭さがなく凡ミスが目立つ。一方、長野は鳥谷越、行田の速攻などがよく決まり前半は長野ペースで終了した。後半に入り、高知は野村の4連続得点など反撃を見せるが、それ以上に長野のコンビネーションのよい攻撃が上回り、点差を広げられてしまった。長野は終始よく走り、スピードハンドボールを見せてくれた。（上原）

	〔高知〕	得	〔長野〕	得
GK	久家	0	片桐	0
GK	成岡	0	北島	0
FP	山本	1	竹内	1
FP	佐賀	0	塩川	6
FP	寺島	1	矢島	7
FP	大原	2	行田	5
FP	酒井	2	渡辺	0
FP	野村	5	青木	0
FP	岡本	0	小山	1
FP	葛目	6	塩川	0
FP	中川	1	岩下	4
FP	谷脇	0	鳥谷越	7
PT		(2)		(3)
		18		31

（審・楠戸　船越）

三重（本田技研鈴鹿） 38 〔17－9／21－4〕 13 千葉

〔戦評〕三重は立ち上がり攻撃に荒さが見られたが、速攻とロング

シュートで加点した。一方、千葉は固い相手ディフェンスを破ることができず21－4で前半を終える。後半に入り、千葉は松井を中心にボールがよく回り、サイドシュートなどで加点したが、38－13で三重の順当勝ち。実業団チームを相手に最後まで千葉は良く戦った。（楠戸）

	〔千葉〕	得
GK	塩原	0
FP	山上	0
	仲村	3
	松井	2
	仲田	3
	植村	3
	寺田	0
	大鐘	1
	飯名	1
	加藤	0
	安井	0
		13
PT		(4)

（審・上原、大城）

	〔三重〕	得
GK	大畑	0
	橋本	0
FP	真砂	2
	三本松	2
	山村	7
	立木	8
	尾上	5
	内藤	0
	粟屋	6
	山本	3
	田口	2
	平子	3
		38
PT		(5)

◆3回戦

埼玉 33（20－11／13－13）24 熊本

〔戦評〕両チーム共気合いの入ったゲームで、埼玉が宮下、中田を中心に、熊本が川崎のサイドシュートを中心にして互角にわたり合う。後半に入りと熊本の足が止まり、また退場で5人になったところをうまく攻めて、埼玉は着実に得点を広げていき逃げ切った。（高良）

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	田中	1
	山口	1
	長野(透)	2
	佐伯	3
	長野(一)	5
	斉所	0
	荒田	3
	三代	1
	松村	0
	川崎	8
		24
PT		(0)

（審・仲里、屋嘉部）

	〔埼玉〕	得
GK	渡辺	0
FP	松岡	4
	大和田	3
	武田	4
	首藤	3
	中田	7
	山本	0
	越迫	0
	菅田	0
	相馬	0
	宮下	12
		33
PT		(1)

鳥取 26（14－9／12－14）23 佐賀

〔戦評〕GK野口の好守に阻まれ思うように加点できない鳥取に対して、佐賀は思い切りのよいシュートで着実に得点し、一進一退の中14－12で前半を終了する。後半15分過ぎ同点に追いつかれた佐賀は守備の乱れから退場者をだし、鳥取に連続得点を許し逃げ切られた。（友寄）

	〔佐賀〕	得
GK	野口	0
	田中	0
FP	井手	0
	志岐	3
	羽立	4
	石丸	3
	小松	5
	中原	0
	白木	2
	境	5
	磯口	1
	野口	0
		23
PT		(3)

（審・藤田、中本）

	〔鳥取〕	得
GK	足川	0
	桑本	0
FP	西村	4
	望月	1
	田中	8
	古賀	3
	児玉	8
	荒木	0
	松井	2
	仁志	0
	小澤	0
	六車	0
		26
PT		(4)

栃木 33（18－8／15－13）21 石川

〔戦評〕両チーム共好守によく足が動き、一進一退の状態が25分頃まで続く。栃木・武井、石川・真田の両エース同士がふんばり、15－13栃木リードで前半を終了。後半開始から、栃木・武井、小西の連続シュートで点差を広げ、その後も危なげない攻守で33－21で栃木が快勝した。（仲里）

	〔石川〕	得
GK	竹中	0
	中村	0
FP	橋本	4
	黒田	0
	西田	2
	古橋	0
	藤井	5
	真田	6
	酒井	1
	中田	0
	北岡	0
	土山	3
		21
PT		(3)

（審・宮元、高良）

	〔栃木〕	得
GK	岩下	0
	高橋	0
FP	山下	3
	山本	1
	川田	2
	武井	9
	薄井	5
	岸	3
	滝口	7
	小西	2
	大出	0
	中山	1
		33
PT		(1)

広島 37（16－14／21－13）27 山梨

〔戦評〕スローオフより、西山、高木を中心とした日新は、一気に山梨を7－1と引き離したが、山梨も菊島のロングシュート、古屋等のポスト及びスカイプレーと多様な攻撃で25分には2点差まで追いついたが、高い位置からのシュートを止めることが出来ず21－13と8点差で後半に入る。両チーム共、前半と同じペースの攻撃を展開、山梨執念の攻防も日新の前に次第に得点差をつけられ、37－27の点差で敗れ去った。しかし、ゲーム内容は山梨が十二分の力を発揮し善戦と言えよう。（福田）

	〔山梨〕	得
GK	菊島(功)	0
	辻	0
FP	武藤	3
	関口	6
	古屋	4
	佐藤(建)	1
	佐藤(茂)	0
	菊島(裕)	4
	広瀬	0
	窪川	0
	中澤	9
	代永	0
		27
PT		(2)

（審・友寄、大城）

	〔広島〕	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	1
	武田	3
	西山	8
	高木	10
	甲斐	3
	藤井	2
	日野	3
	堀田	5
	野中	1
	一瀬	1
		37
PT		(3)

沖縄 42（20－8／22－4）12 秋田

〔戦評〕立ち上がりから、気迫ある沖縄のディフェンスに秋田の攻撃もほとんど通じなかった。秋田・菅野のロング、ポストへのパスなど沖縄に読まれ、次々に速攻へ結びつけた。特にGKの好守が目につき宮城、東江の速攻がよく決まった。よく走る沖縄は、後半に入っても続き、フットワークの良いディフェンスから黒島、新垣がよくシュートを決め点差をひろげた。秋田もロングシュートで対抗したが、脚力の差があり一方的なゲームとなった。（切通）

	〔秋田〕	得
GK	吉田	0
	石山	0
FP	高橋	0
	古関	2
	菅野	2
	近野	0
	佐々木	3
	渡部	0
	半田	0
	斉藤	2
	佐藤	3
		12
PT		(0)

（審・船越、楠戸）

	〔沖縄〕	得
GK	新里	0
	玉城	0
FP	黒島	7
	高良	4
	名嘉	1
	新垣	4
	宮城	5
	上原	4
	内原	3
	嘉舎場	4
	東江	10
		42
PT		(3)

大阪 40（20－13／20－5）18 福井

〔戦評〕前半、大阪は辻本を中心に10分8－1とリード、その後も福井の攻撃のまずさから速攻につなぎ、20－5と大差をつけて終了。後半に入っても、福井は攻めがちぐはぐで、それにつけ込んで大阪は加点していった。攻撃力の差がはっきりした試合であった。（大城）

	〔福井〕	得
GK	柴田	0
	川村	0
FP	竹野	3
	半田	2
	五十嵐	0
	土橋	0
	小林	8
	谷口	0
	松山	0
	宮川	3
	田中	1
	川上	1
		18
PT		(2)

（審・萬場、里）

	〔大阪〕	得
GK	信貴	0
	太田	0
FP	勝本	0
	源野	3
	成瀬	2
	大西	2
	三谷	3
	厚ケ瀬	5
	小松	7
	岩本	5
	辻本	12
	高橋	1
		40
PT		(1)

東京 44（24－15／20－10）25 鹿児島

〔戦評〕東京の速攻、PTの失敗でリズムに乗れない間に、ゴール前の早いパス回しでペナルティーを得て、鹿児島が池之上を中心に互角に試合を運んだ。前半なかば単調な攻撃になった鹿児島のパスを読み、東京の速攻が出るようになり20－10で折り返す。後半もアウトドアの試合のため今ひとつリズムのつかめい東京であったが、

	〔鹿児島〕	得
GK	西	0
	石原	0
FP	馬場	2
	平山	4
	亀沢	3
	安田(茂)	0
	安田(三)	3
	有村(隆)	0
	有村(豊)	0
	池之上	9
	山川	2
	富山	2
		25
PT		(3)

（審・切通、大村）

	〔東京〕	得
GK	宇田川	0
	吉田	0
FP	関	7
	清家	5
	田口	1
	吉原	0
	砂川	10
	山口	4
	浜田	7
	大塚	0
	安達	3
	河村	7
		44
PT		(5)

清家が要所でポイントし勝利を得た。鹿児島GK石原の好守が随所に見られた。（船越）

三重 42 〔21－7／21－12〕 19 長野

得	三重		長野	得
0	大畑	GK	片桐	0
0	橋本		北島	0
5	真砂	FP	竹内	0
3	三本松		塩川(亮)	2
1	山村		矢島	5
4	立木		行田	3
11	尾上		渡辺	0
5	内藤		青木	0
6	粟屋		小山	5
4	山本		塩川(源)	0
0	田口		岩下	4
3	平子		島谷	0
42	(6)	PT	(2)	19

（審・大城 知念）

〔戦評〕前半、三重ペースで展開、立木、内藤などの得点で21－7で終る。後半も同じく三重ペースで始まり、速攻などで着々と加点。長野は健闘するも三重の動きについけず、大差で敗れた。（萬場）

◆準々決勝

埼玉 33 〔17－11／16－11〕 22 鳥取

得	埼玉		鳥取	得
0	渡辺	GK	足川	0
0	矢内		桑本	0
6	松岡	FP	西村	0
0	大和田		望月	4
2	武田		田中	3
4	首藤		古賀	3
12	中田		児玉	7
0	山本		荒木	0
0	越迫		松井	5
1	菅田		仁志	0
0	相馬		小澤	0
8	宮下		六車	0
33	(2)	PT	(0)	22

（審・仲里 屋嘉部）

〔戦評〕鳥取は田中、児玉のロングシュート、松井の速攻などで前半20分までは10－12と頑張ったが、実力で勝る埼玉は、宮下のアシスト、中田の速攻で確実に加点し、前半17－11で終了した。最後まで全力を尽くした鳥取が印象に残った。（宮元）

広島 29 〔15－9／14－15〕 24 栃木

得	広島		栃木	得
0	西川	GK	岩下	0
0	森田		高橋	0
4	森	FP	山下	1
3	武田		山本	0
8	西山		川田	1
8	高木		武井	5
2	甲斐		溥井	1
1	藤井		岸	2
1	日野		滝口	12
1	堀田		小西	1
1	野中		大出	0
0	一瀬		中山	1
29	(2)	PT	(3)	24

（審・宮元 高良）

〔戦評〕実力に勝る広島が西山、高木らのシュートで得点を重ね、武井、滝口のシュートで粘る栃木をくだした。（屋嘉部）

沖縄 39 〔17－11／22－6〕 17 大阪

〔戦評〕前半両チーム固さがみられ、パス、シュートミスが目立つ。20分頃より、沖縄が走り出し速攻、ポスト等で確実に得点を入れ、前半17－11沖縄のリードで終了。後半に入っても、沖縄が走り出し速攻、サイドシュートを決める。大阪もスカイプレー、速攻をするが沖縄のGK新垣の再三の好守にあいなかなか得点が入らず、結局39－17で沖縄が圧勝する。（大城）

得	沖縄		大阪	得
0	新垣(泰)	GK	信貴	0
0	玉城		太田	0
2	黒島	FP	勝本	0
4	高良		源野	5
4	名嘉		成瀬	7
4	新垣(志)		大西	2
2	宮城		三谷	0
3	上原		厚ケ瀬	0
3	内原		小松	0
5	嘉舍場		岩本	0
12	東江		辻本	3
			高橋	0
39	(2)	PT	(2)	17

（審・福田 中本）

三重 25 〔14－13／11－10〕 23 東京

〔戦評〕前半、三重は東京の速いツメでリズムに乗れずミスが目立った。東京はミスに乗じて速攻、ポストなどで得点する。しかし、15分過ぎより三重にリズム感が見られるようになり、ロング、ポストなどで加点し1点差で終了する。後半に入り、一進一退の攻防となったが、12分過ぎに三重が3連続PTを決め逃げ切る。東京のGKの好守が光った。（中本）

得	三重		東京	得
0	大畑	GK	宇田川	0
0	橋本		吉田	0
1	真砂	FP	関	1
0	三本松		清家	1
7	山村		田口	2
3	立木		吉原	0
2	尾上		砂川	4
2	内藤		山口	4
6	粟屋		浜田	11
3	山本		大塚	0
1	田口		安達	0
0	平子		河村	0
25	(6)	PT	(5)	23

（審・友寄 大城）

◆準決勝

広島 31 〔16－15／15－13〕 28 埼玉

〔戦評〕前半埼玉は松岡のシュートで先取点、一方広島は高木のロングで同点、15分まで埼玉がリードしていたが、その後西山のカットインが決まり広島が逆転、前半16－15で終了。後半開始早々、広島は甲斐の速攻で2点リードし、広島ペースになってきた。埼玉は、後半あたり出した西山にマンツーマンして広島のリズムを崩し2点差とするが、残り2分に日野が決め広島が突き放した。守ってはGK森田が再三のピンチを好守し、結局31－28で逃げ切った。（大城）

得	広島		埼玉	得
0	西川	GK	渡辺	0
0	森田		矢内	0
0	森	FP	松岡	7
2	武田		大和田	1
11	西山		武田	1
6	高木		首藤	2
0	甲斐		中田	4
7	藤井		山本	5
1	日野		越迫	0
4	堀田		菅田	0
0	野中		相馬	0
0	一瀬		宮下	8
31	(2)	PT	(3)	28

（審・仲里 屋嘉部）

三重 30 〔13－8／17－11〕 19 沖縄

〔戦評〕地力に勝る三重が前半より、立木、内藤のミドルシュートや粟屋の速攻で着実に得点を重ねていった。後半に入っても、ミドル、速攻と得点を重ねる。これに対し沖縄は、足を使って攻めるが三重の守りを崩せず差をつけられてい

った。沖縄に速攻をさせなかった三重のうまさが光った。（屋嘉部）

	沖縄	得	三重	得
GK	新垣(泰)	0	畑本	0
GK	玉城	0	大橋	0
FP	黒島	3	真砂	3
FP	高良	4	三本松	2
FP	名嘉	1	山村	6
FP	新垣(志)	1	立木	7
FP	宮城	0	尾上	0
FP	上原	1	内藤	1
FP	内原	0	粟屋	6
FP	新里	0	山本	1
FP	喜舎場	4	田口	2
FP	東江	5	平子	2
PT	(3)	19	(0)	30

（審・大城、知念）

◆3位決定戦

埼玉 39（19－15、20－13）28 沖縄

〔戦評〕立ち上がり沖縄は、すばらしい出足でポスト、速攻、サイドと多彩な攻撃で連続ゴールを決めるが、埼玉も宮下のミドルシュートなどで7連続シュートを決め前半19－15と埼玉リードで終了する。後半に入ると沖縄のパス、キャッチミスが多く、そのスキに埼玉が確実に得点を重ね、一気に突き放す。（大城）

	沖縄	得	埼玉	得
GK	新垣(泰)	0	渡辺	0
GK	玉城	0	矢内	0
FP	黒島	6	松岡	10
FP	高良	6	大和田	0
FP	名嘉	2	武田	0
FP	新垣(志)	0	首藤	1
FP	宮城	3	中田	8
FP	上原	2	山本	5
FP	内原	1	越迫	2
FP	新里	0	菅田	4
FP	喜舎場	3	相馬	1
FP	東江	5	宮下	8
PT	(0)	28	(1)	39

（審・福田、中本）

◆決勝

三重 21（8－4、13－11）15 広島

〔戦評〕決勝戦は日本リーグのトップをいくチームの対戦で、前半戦から激しい攻防となった。三重の早い当たりに広島はペースをつかめず8－4で終了。後半に入り、退場者を出しながらも確実にポイントを重ねる三重に、広島は激しく追い上げ互角の展開となるが、残り10分、ポスト攻撃で波に乗る三重が逃げ切った。（友寄）

	広島	得	三重	得
GK	西川	0	畑本	0
GK	森田	0	大橋	0
FP	森	0	真砂	0
FP	武田	3	三本松	5
FP	西山	3	山村	2
FP	高木	6	立木	0
FP	甲斐	1	尾上	2
FP	藤井	0	内藤	3
FP	日野	2	粟屋	6
FP	堀田	0	山本	0
FP	野中	0	田口	3
FP	一瀬	0	平子	0
PT	(3)	15	(6)	21

（審・大城、南）

成年女子

◆1回戦

石川（北国銀行）33（15－9、18－10）19 北海道（上磯ク）

〔戦評〕スピードに勝る石川は、立ち上がりから足をからめた攻撃で着々と加点。北海道も山本を中心にミドル、ポストと反撃するが前半は15－9と石川リードで終了。後半に入っても、石川の足は衰えず中川のロングもよく決まり、GK木戸の好守もあって、結局石川が北海道を33－19で制した。（仲里）

	北海道	得	石川	得
GK	小松	0	辻	0
GK	久保田	0	木戸	0
FP	村元	0	中川	11
FP	大原	0	林	0
FP	山本	8	丹後	5
FP	橋本	0	川北	0
FP	狩野	0	松下	0
FP	伝法	3	川崎	7
FP	相馬	3	塙	2
FP	長谷川	2	北川(静)	0
FP	藤本	1	上田	3
FP	白幡	2	北川(真)	4
PT	(4)	19	(9)	33

（審・大城、南）

大阪（大和銀行）34（18－11、16－10）21 福島（ムネカタ）

〔戦評〕大阪は長身袰川、藤谷のロングシュートを中心とした攻めに加えて、全員がよく走り速攻も決まった。一方、福島は大阪の高いディフェンスに苦戦しながらもカットイン、ポスト、ステップなどで応戦し前半20分まで一進一退の攻防が続いたが、大阪のペースで信仰し、34－21で大阪の勝利となった。（南）

	福島	得	大阪	得
GK	遠藤	0	高浜	0
GK	我妻	0	増見	0
FP	藤谷	0	丸田	6
FP	佐藤	5	鈴木	1
FP	吉田	0	赤嶺	4
FP	上遠野	1	上村	4
FP	桜井	2	松田	1
FP	酒井	3	藤本	4
FP	高橋	0	渡辺	0
FP	皆川	5	袰川	10
FP	太田	5	木瀬	4
FP	伊藤	0	平井	0
PT	(2)	21	(1)	34

（審・仲里、屋嘉部）

鹿児島（ソニー国分）28（12－10、16－11）21 広島（広島ク）

〔戦評〕鹿児島は足を使った速い攻撃で広島ゴールを攻めるが、広島GK永岡の好守に阻まれ12－10で前半を終了する。後半に入っても、鹿児島は全員よく走り山口、藤元、崎元らが速攻を決め、中田を中心としたコンビプレーで追いすがる広島を振り切った。（屋嘉部）

	広島	得	鹿児島	得
GK	永岡	0	阿多石	0
GK	山本	0	林	0
FP	本西	0	斜木	0
FP	水木	1	楠本	1
FP	山田	0	宮原	2
FP	中田	7	白石	0
FP	富永	2	当房	0
FP	藤岡	3	永尾	2
FP	高松	0	崎元	8
FP	猫本	3	東郷	6
FP	三田	0	山口	4
FP	矢舗	5	藤元	5
PT	(1)	21	(2)	28

（審・大城、南）

◆準々決勝

大阪 31（12－11、19－9）20 三重（ジャスコ）

〔戦評〕日本リーグ勢同士でスピード感のあるゲームとなる。三重が2本のPTをはずしペースをつかめないのに対し、大阪は丸田、鈴木、上村の活躍で16分8－5と引き離すが、三重も追い上げ12－11と1点差で折り返す。後半に入

っても三重は、大阪の速い出足のディフェンスを攻めあぐむ。大阪は丸田、袋川のロングシュートを中心に、速攻、ポストなど伸び伸びとプレーをし、三重を振り切った。（古富）

〔三重〕	得		得	〔大阪〕
小深田	0	GK	0	高浜
山口	0		0	増見
服部	3	FP	9	丸田
近藤	4		5	鈴木
石田	2	〔審・金城 菅間〕	3	赤嶺
佐々木	3		6	上村
池田	1		0	松田
渡辺	3		3	藤本
常石	0		1	渡辺
高岡	0		4	袋川
武田	2		0	木瀬
東出	2		0	平井
(1)	20	PT	31	(2)

沖縄 26 〔15−8 11−4〕 12 香川
（レキオク）（香川選抜）

〔戦評〕立ち上がり沖縄は、地元の大応援を背に固さが見られたが、10分過ぎあたりから真栄城を中心に全員がよく走り着実に得点を重ねた。

一方、香川もよく頑張るが沖縄の走りにリズムを乱し、実力を発揮することが出来ず沖縄の走り勝ち。（管間）

〔香川〕	得		得	〔沖縄〕
鎌田	0	GK	0	伊是名
松川	0		0	砂辺
高藤	0	FP	5	平良
末佐	4		5	嵩原
河野	4	〔審・古冨 赤地〕	1	具志堅
桃本	0		3	山本
下野	0		3	真来城
吉川	0		0	石川
谷本	2		3	喜久山
福崎	0		0	澤村
笠井	2		2	下里
橋	0		4	高良
(3)	12	PT	26	(0)

熊本 29 〔17−16 12−5〕 21 石川
（立石電機山鹿）

〔戦評〕熊本が多彩な攻撃で快勝した。前半10分まで3−3と石川も健闘したが、その後、石川のミスを確実に速攻で加点し前半12−5で終了。後半に入り、石川もディフェンスの甘くなった熊本に対し巧みなポストプレーで連続得点し、13−9と4点差までつめよったが、チャンスを着実にものにした熊本が振り切った。石川の後半の健闘が光った。（赤地）

〔石川〕	得		得	〔熊本〕
辻	0	GK	0	岡本
木戸	0		0	竹下
中川	5	FP	2	山口
林	4		4	山内
丹後	1	〔審・菅間 金城〕	4	江口
川北	1		0	岩村
松下	0		5	横田
川崎	2		5	野嶋
塙	0		1	田中
北川(静)	2		3	中山
上田	4		5	橋本
北川(真)	2			
(6)	21	PT	29	(4)

山梨 32 〔16−10 16−4〕 14 鹿児島
（シャトレーゼ）

〔戦評〕スピード、パワーに勝る山梨は、島崎、海道を中心にロング、速攻と着実に得点し、前半を16−4で折り返す。後半に入っても山梨の動きは衰えず、固い守りで確実に得点を重ねていった。一方、鹿児島も懸命に走るがGK丸山の好守にあい、なかなか得点ができない。しかし後半は動きがよくなったが前半の得点差がひびき涙を飲む。（金城）

〔鹿児島〕	得		得	〔山梨〕
阿多石	0	GK	0	丸山
林	0		0	高原
斜木	0	FP	0	星野
楠本	0		10	嶋崎
宮原	2	〔審・古冨 赤地〕	7	海道
白石	0		4	松沢
当房	0		1	島袋
永尾	1		3	小林
崎元	0		2	小野寺
東郷	4		0	井出
山口	3		1	小沼
藤元	4		4	山岸
(0)	14	PT	32	(7)

◆準決勝

熊本 27 〔18−11 9−5〕 16 沖縄

〔戦評〕開始5分まで両GKの好守に無得点、6分過ぎ熊本2点先取、10分沖縄・高良ゲット、その後、前半終了までGKの好守で白熱した試合であった。後半、波に乗り出した熊本の勝ち。しかし、沖縄もよく頑張った。（菅間）

〔沖縄〕	得		得	〔熊本〕
伊是名	0	GK	0	岡本
砂辺	0		0	竹下
平良	2	FP	1	山口
嵩原	2		0	山内
具志堅	0	〔審・野中 伊藤〕	4	江口
山本	1		1	岩村
真栄城	1		3	横田
石川	0		6	野嶋
喜久山	0		2	田中
澤村	0		5	中山
下里	0		5	橋本
高良	10			
(5)	16	PT	27	(1)

大阪 27 〔13−12 14−12〕 24 山梨

〔戦評〕前半立ち上がりやや固さのある大阪に対して、山梨は海道のジャンプシュート、速攻を折り混ぜて幸先のよいスタートを切り、15分頃まで優位に試合を進めたが、大阪もシュートカットからたて続けに4本の速攻を生かし優位にたち、丸田、鈴木のジャンプシュートがによく決まり14−12で前半を終了。後半にはいっても、大阪は丸田のロングシュートにポスト、速攻をからませ、食い下がる山梨を27−24で振り切った。大阪・丸田、山梨・海道両エースの活躍が目立った。（野中）

〔山梨〕	得		得	〔大阪〕
丸山	0	GK	0	高浜
高原	0		0	増見
星野	0	FP	8	丸田
嶋崎	1		4	鈴木
海道	17	〔審・金城 菅間〕	2	赤瀬
松沢	2		4	上村
島袋	1		0	松田
小林	0		5	藤本
小野寺	1		0	渡辺
井出	0		4	袋川
小沼	1		0	木瀬
山岸	1		0	平井
5	24	PT	27	(3)

◆3位決定戦

山梨 31 〔17−9 14−8〕 17 沖縄

〔戦評〕前半、山梨は長身を生かしステップ、ミドルシュートで得点し前半14−8で終了。後半に入っても山梨は、ミドル、サイドシュートを決める。一方、沖縄も速攻、ポストシュートをするが、山梨のGK高原の再三の好守にあい山梨が勝利を得る。（大城）

〔沖縄〕		得
GK	伊是名	0
GK	砂辺	0
FP	平良	3
FP	嵩原	6
FP	具志堅	1
FP	山本	4
FP	真栄城	1
FP	石川	0
FP	喜久山	0
FP	澤村	1
FP	下里	0
FP	高良	1
PT		(1)
		17

（審・上原、大城）

〔山梨〕		得
GK	丸山	0
GK	高原	0
FP	星野	0
FP	嶋崎	9
FP	海道	6
FP	松沢	6
FP	島袋	0
FP	小林	1
FP	小野寺	2
FP	井出	3
FP	山岸	4
PT		(5)
		31

◆決勝

大阪 28〔16−9／12−8〕17 熊本

〔戦評〕立ち上がり、熊本に固さが見られ、ディフェンスの動きが鈍く、大阪のカットインシュートがつぎつぎに決まり大阪のペースでゲーム展開、16−9で前半を終了。

後半は、大阪のエース丸田をマークしてゆさぶりをかけ、ディフェンスもよくなり一進一退のゲーム展開。しかし前半の得点差が大きく、最後までスピードの落ちない大阪が勝つ。（大城）

〔熊本〕		得
GK	岡本	0
GK	竹下	0
FP	山口	0
FP	山内	2
FP	江口	2
FP	岩村	2
FP	横田	0
FP	野嶋	3
FP	田中	0
FP	中山	4
FP	橋本	4
PT		0
		17

（審・友寄、大城）

〔大阪〕		得
GK	高浜	0
GK	増見	0
FP	丸田	6
FP	鈴木	4
FP	赤瀬	7
FP	上村	3
FP	松田	0
FP	藤本	1
FP	渡辺	4
FP	襄川	3
FP	木瀬	0
FP	平井	0
PT		(2)
		28

少年男子

◆1回戦

大阪（選抜）24〔9−10／15−10〕20 秋田（湯沢高）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チーム共に固さがみられたが、赤平の速攻、ミドルシュートで秋田が10−9と1点リードで折り返す。

後半10分まで一進一退の攻防をくり返したが、守りを堅めた大阪が速攻を連続して決めて24−20で逃げ切った。（森山）

〔秋田〕		得
GK	近	0
GK	下嶋	0
FP	菅	2
FP	赤平	8
FP	八十田	2
FP	井上	2
FP	山岸	0
FP	鶴田	0
FP	坂本	4
FP	高山(敦)	0
FP	高山(康)	2
FP	柴田	0
PT		(1)
		20

（審・高良、宮元）

〔大阪〕		得
GK	福島	0
GK	大屋	0
FP	山田	6
FP	白井	2
FP	有田	0
FP	伊勢坊	2
FP	小坂	2
FP	鳥平	6
FP	平山	4
FP	奥	0
FP	橋爪	2
FP	井上	0
PT		(1)
		24

沖縄（選抜）36〔13−8／23−11〕19 愛媛（選抜）

〔戦評〕前半10分まで両チーム共ミスが多く、得点が動かない状態が続くが、守りを堅めて落ち着いて得点を重ねる沖縄が13−8とリードして前半を終了した。

後半に入ると、沖縄のシュートが次々に決まり出し、点差が開いていった。これに対し、愛媛も両サイドが攻めの決め手となり対抗するが、守りの堅さで沖縄が勝った試合であった。（高良）

〔愛媛〕		得
GK	清家	0
GK	川村	0
FP	岡田	5
FP	加藤	1
FP	日野	1
FP	安永	0
FP	砂川	0
FP	松浦	4
FP	武方	1
FP	岡井	0
FP	大森	1
FP	嵐	6
PT		(1)
		19

（審・森山、高橋）

〔沖縄〕		得
GK	高良	0
GK	我謝	0
FP	下地	7
FP	嶺井	2
FP	又吉	6
FP	比嘉	6
FP	長田	3
FP	吉浜	1
FP	上原	0
FP	知念	4
FP	高島	2
FP	仲宗根	5
PT		(1)
		36

愛知（選抜）34〔16−11／18−6〕17 石川（選抜）

〔戦評〕開始30秒、愛知がPTで1点先取するが石川もすぐに反撃同点。19分過ぎまでシーソーゲームの展開、しかし20分過ぎから愛知の速攻が決まり出し、着々と加点、一方石川は散発的な得点で前半は16−11と愛知リードで終わる。

後半も愛知が速攻で得点を加えるが、石川はリズムを失い得点が続かず、結局34−17と大差で勝負がついた。（高橋）

〔石川〕		得
GK	池田	0
GK	木戸口	0
FP	永井	2
FP	川端	1
FP	江知	2
FP	松見	1
FP	中村	7
FP	福田	3
FP	前田	1
FP	竹上	0
FP	村本	0
FP	河原	0
PT		(2)
		17

（審・宮元、高良）

〔愛知〕		得
GK	岩佐	0
GK	林	0
FP	野田	5
FP	内田	9
FP	鈴村	0
FP	鎌田	2
FP	松野	2
FP	鳥本	1
FP	大蔵	4
FP	二村	3
FP	杉浦	8
FP	寺島	0
PT		(1)
		34

◆準々決勝

大阪 26〔13−10／13−8〕18 福岡（久工大付高）

〔戦評〕前半立ち上がりから両チーム共早い動きからのカットイン、ポストプレーと多彩な攻撃を見せ、20分まで9−9と一進一退の攻防を展開、20分過ぎ、福岡のパスミスのすきをつき、大阪・島平の巧みなフェイントプレーで3点差をつけて前半を終了。

後半に入ってすぐ大阪は島平、平山の得点で5点差とし優位にたった。福岡は攻守に精鋭がなく、シュートミスが目立ち、点差を縮めることができなかった。（野中）

〔福岡〕		得
GK	篠崎	0
GK	久保田	0
FP	平野	6
FP	東嶋	0
FP	杉元	4
FP	久保田	0
FP	後藤	4
FP	安永	0
FP	福井	2
FP	井上	2
FP	平野	0
PT		(1)
		18

（審・切通、大村）

〔大阪〕		得
GK	福島	0
GK	大屋	0
FP	山田	4
FP	白井	1
FP	有田	0
FP	伊勢坊	5
FP	小坂	1
FP	鳥平	8
FP	平山	6
FP	奥	0
FP	橋爪	0
FP	井上	1
PT		(1)
		26

千葉（選抜）22〔7−8／15−11〕19 岡山（選抜）

〔戦評〕立ち上がり両チームGKの好守で3分程無得点であった。岡山は園田(秋)速攻、中島の切れ味鋭いフェイントで得点、一方千葉も有坂、福島のロング、藤本の

カットインで対抗、シーソーゲームとなった。
　後半は、千葉・本間がサイドシュートやカットインからのシュートを決めすぐに逆転、榎のポストプレーで主導権を握る。岡山はポストプレーのパスミスが目立ったが、近藤のサイドシュートで反撃するが、千葉・藤本の活躍で逃げ切る。（切通）

〔岡山〕	得		〔千葉〕	得
光井	0	GK	小林	0
堀	0	GK	栗山	0
近藤	5	FP	榎	6
坂本	0	FP	本間	3
園田(秋)	4	FP	横山	0
園田(幸)	5	FP	有坂	2
吉田	0	FP	福島	3
中島	2	FP	坂入	0
山本	2	FP	永沢	0
渡辺	1	FP	宮下	0
吉永	0	FP	藤元	6
米戸	0	FP	佐伯	2
(2)	19	PT	(1)	22

（審・伊藤 野中）

沖縄 21（11―7 10―7）14 北海道（選抜）

〔戦評〕前半6分まで2―1と両チーム共に決め手を欠く攻撃であったが、8分、沖縄は速攻を含む4連続得点をあげ、ゲームの主導権を握った。北海道は、高橋を中心にカットイン、コンビプレーで反撃し、前半は3点差で終った。
　前半の残り5分から10分間得点のなかった沖縄は、知念が3連続得点しムードを盛り上げた。その後両チーム共一進一退の攻防をくり返し、そのまま沖縄が逃げ切った。（伊藤）

〔北海道〕	得		〔沖縄〕	得
佐藤	0	GK	高良	0
松	0	GK	我謝	0
建部	1	FP	下地	1
久保	1	FP	嶺井	0
高橋	6	FP	又吉	5
宇美	0	FP	比嘉	1
伊藤	1	FP	長田	0
三橋	0	FP	吉浜	3
駒野	2	FP	上原	0
寺島	3	FP	知念	9
紅谷	0	FP	高島	2
佐々木	0	FP	仲宗根	0
(0)	14	PT	(2)	21

（審・大村 切通）

愛知 34（14―16 12―10 3―1 5―2）29 熊本（熊本市商）

〔戦評〕熊本は立ち上がり自分のペースをつかめず、15分で10―8と愛知ペース。しかし途中から、長身・岩本のロングシュート、GK宮本からの速攻などで前半、熊本の2点リードで終了。
　後半、愛知・野田、内田の5連続得点で逆に4点をリード、残り1分30秒で2点リード。しかし、熊本が速攻で2点を決め延長へ。
　延長戦は、愛知・下蔵のロング、松野のサイドシュートで引き離す。（熊本の速攻ミスとノーマークのはずしが惜しまれるゲームであった。）（大村）

〔熊本〕	得		〔愛知〕	得
宮本	0	GK	岩佐	0
増永	0	GK	林	0
樋口	2	FP	野田	5
阿萬	6	FP	内田	11
中村	6	FP	鈴村	0
改田	0	FP	鎌田	1
浦塘	4	FP	松野	7
鶴田	4	FP	鳥木	0
岩本	7	FP	大蔵	6
宮本	0	FP	二村	0
赤星	0	FP	杉浦	4
門口	0	FP	寺島	0
(5)	29	PT	(5)	34

（審・野中 伊藤）

◆準決勝

大阪 19（8―6 11―11）17 千葉

〔戦評〕準決勝戦にふさわしく接戦となったが、大阪が粘る千葉を振り切り決勝へ進んだ。
　立ち上がりは、大阪が先行する形で進み、千葉も福島のロングで応戦し15分に6―6と同点にしたが、その後動きが止まり、大阪が速攻を決めて前半を8―6で終る。
　後半に入っても一進一退の攻防が続き、動きの良くなった千葉が5連続得点し、8分に11―10と逆に1点リードを奪った。その後もシーソーゲームがつづいたが、23分大阪が2連続速攻を決め、2点差で勝利をものにした。（赤地）

〔千葉〕	得		〔大阪〕	得
小林	0	GK	福島	0
栗山	0	GK	大屋	0
榎	1	FP	山田	6
本間	0	FP	白井	1
横山	0	FP	有田	0
有坂	4	FP	伊勢坊	1
福島	5	FP	小坂	0
坂入	1	FP	鳥平	9
永沢	0	FP	平山	2
宮下	0	FP	奥	0
藤本	3	FP	橋爪	0
佐伯	3	FP	井上	0
(1)	17	PT	(2)	19

（審・大南 城）

沖縄 25（13―10 12―12）22 愛知

〔戦評〕地元の大声援を受けて沖縄が、吉浜のカットインシュートなどで波に乗る。一方愛知も粘りを見せ、見応えのあるゲーム展開で前半を終了。
　後半も一進一退の素晴らしいプレイを見せたが、結局沖縄が3点差で逃げ切った。（大城）

〔愛知〕	得		〔沖縄〕	得
岩佐	0	GK	高良	0
林	0	GK	我謝	0
野田	5	FP	下地	7
内田	5	FP	嶺井	0
鈴村	0	FP	又吉	3
鎌田	2	FP	比嘉	3
松野	1	FP	長田	0
鳥本	0	FP	吉浜	3
大蔵	7	FP	上原	0
二村	1	FP	知念	1
杉浦	1	FP	高島	4
寺島	0	FP	仲宗根	4
(1)	22	PT	(2)	25

（審・古富 赤地）

◆3位決定戦

千葉 25（13―10 12―7）17 愛知

〔戦評〕前半立ち上がりから激しい点の取り合いで試合が展開したが、15分を過ぎた頃から千葉は相手のミスに乗じて得点を重ね、5点差で前半を終了。
　後半にはいって、愛知は一時3点差まで追い上げたが、千葉の攻

〔愛知〕	得		〔千葉〕	得
岩佐	0	GK	小林	0
林	0	GK	栗山	0
野田	2	FP	榎	6
内田	1	FP	本間	1
鈴村	0	FP	横山	0
鎌田	0	FP	有坂	6
松野	1	FP	福島	6
鳥本	0	FP	坂入	0
大蔵	6	FP	永沢	2
二村	1	FP	宮下	0
杉浦	6	FP	藤本	2
寺島	0	FP	佐伯	2
(2)	17	PT	(0)	25

（審・宮元 高良）

撃を止めることができないまま終了。（上原）

◆決勝

沖縄 19（8－12、11－5）17 大阪

〔戦評〕立ち上がりから一進一退の攻防かと思われたが、沖縄はパスミスが多くリズムに乗れない。一方大阪は、守りを堅め速攻を中心にポスト、ミドルと確実に得点を重ね12－8と大阪リードで前半を終る。

後半に入り、沖縄は観客と一体となり、攻撃的ディフェンスからリズムをつかみ、10分に13－13の同点とする。15分に伊勢坊、小坂が退場となるも足を使ってよく守り、19－17と観客の熱狂的応援で逆転で勝利を手にした。（森山）

得	〔沖縄〕		〔大阪〕	得
0	高良	GK	福島	0
0	我謝		大屋	0
8	下地	FP	山田	4
0	嶺井		白井	0
1	又吉		有田	0
3	比嘉		伊勢坊	1
0	長田	（審・中本 福田）	小坂	0
3	吉浜		鳥平	6
1	上原		平山	3
1	知念		奥	0
0	高島		橋爪	3
2	仲宗根		井上	0
19	(1)	PT	(2)	17

少年女子

◆1回戦

愛知（選抜）32（15－12、17－9）21 熊本（少年女子）

〔戦評〕愛知のスローオフで開始、西のロングで先行。すぐに熊本・酒井がカットインを決める。熊本は全員がよく走り、得点を重ねる。愛知はロングを中心とした攻めで得点、15－12で前半終了。

後半、疲れの出た熊本に対し、愛知は走るようになり、ポストプレーがよく決まり、逆に熊本はあせりから早打になり、思わぬ差がついたゲームとなった。（不明）

得	〔愛知〕		〔熊本〕	得
0	徳永	GK	平田	0
0	高木		城下	0
6	日比野	FP	高洲	0
4	岩野		松井	6
0	寺床		酒井	9
3	陰		河野	5
1	八田	（審・大城 知念）	内田	0
1	飯田		久保田	1
6	西		野角	0
3	原田		栗林	0
5	山田		山下	0
3	国枝		塩井	0
32	(4)	PT	(1)	21

宮城（全宮城）30（17－6、13－9）15 愛媛（選抜）

〔戦評〕宮城は相手のミスにつけこんで着実に得点に結びつけた。それに対し小柄な愛媛は、早いパス回しからポスト、サイドと攻めるが、肝心な所でパス、キャッチミスが出て、なかなか得点できない。

後半に入り、愛媛はサイド、ポストから得点するが、またもやミスが続き自滅。宮城は防御を固め、速攻に結びつき、遅攻でもロング、サイド、ポストと多彩な攻めで愛媛を圧倒した。（大城）

得	〔宮城〕		〔愛媛〕	得
0	松山	GK	鎌田	0
0	今野		大澤	0
4	鈴木	FP	山崎	1
5	菅井		南條	2
2	遠藤		別府	2
1	大槻		江原	1
5	田島	（審・菅間 金城）	加藤	7
2	片倉		渡部(和)	0
0	大友		八木	2
0	大沼		苅田	0
3	熱海		木村	0
8	及川		渡部(信)	0
30	(1)	PT	(4)	15

山口（選抜）38（19－7、19－6）13 北海道（選抜）

〔戦評〕立ち上がり両チーム共調子が出ず、ミスが続出した。10分過ぎから山口は調子が出始め、リズムにのり、キャプテン福成寺を中心に確実に得点を重ねる。一方北海道は、暑さからくるのか最後までミスが続出し、大差でゲームを終了した。（金城）

得	〔山口〕		〔北海道〕	得
0	中嶋	GK	笹治	0
0	高林		伊藤	0
4	香井	FP	高崎	1
3	森本		米田	1
3	福田		富田	0
6	石村		渡辺	0
10	福成寺	（審・大城 知念）	藤本	2
3	北辰		腰本	5
3	室重		柴田	3
2	河村		佐藤	0
3	小林		鎌田	0
1	芦村		竹内	1
38	(4)	PT	(0)	13

◆準々決勝

東京（選抜）20（5－8、15－7）15 愛知

〔戦評〕両チーム共に激しく走り好ゲーム展開となる。東京の執印のロングシュートに対して愛知は湯野川、澤潟、中村のジャンプ、カットインシュートがよく決まり、8－5と愛知リードで前半を折り返す。後半に入ると、愛知ディフェンスのスキをついて東京はサイド、ポストから連続得点し、11分過ぎ11－9と逆に波に乗り、勝利を決定づけた。東京の真名子、三村の開始直後のポイントが試合の流れを大きく変えた。（友寄）

得	〔東京〕		〔愛知〕	得
0	宇井	GK	徳永	0
0	関口		高木	0
2	湯野川	FP	日比野	2
3	近藤		岩野	0
4	竹吉		寺床	0
3	真名子		陰	0
2	三村	（審・中本 福田）	八田	0
4	執印		飯田	2
0	澤潟		西	6
1	本橋		原田	0
0	中村		山田	3
1	橋本		国枝	2
20	(2)	PT	(2)	15

石川（選抜）19（7－8、12－9）17 滋賀（彦根商高）

〔戦評〕開始より滋賀は着実に得点を重ね、15分には5－1とマイペースで展開。一方石川は、20分に同点としたが、結局8－7と滋賀が1点リードして前半を終了。

後半開始早々石川は同点とするが、滋賀も粘り強く反撃、残り3

分でまた2点差と追いすがったが、白チームの凡ミスを速攻で連続ゲットされ、19−17で石川が勝利をつかんだ。（福田）

得	〔石川〕		〔滋賀〕	得
0	岩井	GK	川幡	0
0	東方		圓城	0
5	森	FP	森	1
1	宮本		石田	2
3	西田		木村	4
0	堀川	（審・友寄・大城）	鋒山	5
5	谷本		藤居	0
2	阿部		矢野	3
0	桜井		山田	1
0	谷下		嶋佐	0
3	松下		間柴	1
0	石村		越智	0
19	(1)	PT	(1)	17

沖　縄（選抜） 21 〔8−13 / 13−6〕 19 宮　城

〔戦評〕宮城は沖縄の比嘉をマンツーマンで守が、沖縄はポスト、速攻、ミドルシュートと多彩な攻撃で得点を重ねる。一方宮城も足を生かし、サイド、ポストシュートを決め、前半13−6と沖縄のリードで終了する。後半に入ると、沖縄の足がとまり、宮城が5連続得点を入れるが前半の失点が多く、沖縄が逃げ切った。（大城）


沖縄を初優勝に導いた
エース川比嘉晴美選手

得	〔沖縄〕		〔宮城〕	得
0	仲程	GK	松山	0
0	金城		今野	0
0	大湾	FP	鈴木	3
8	比嘉(恵)		菅井	2
2	冨着		遠藤	0
3	地原	（審・中本・福田）	大槻	0
2	仲宗根		田島	6
3	比嘉(晴)		片倉	3
0	仲井間		大友	0
0	古田		大沼	0
3	宮国		熱海	0
0	長田		及川	5
21	(1)	PT	(4)	19

山　口 22 〔10−7 / 12−8〕 15 宮　崎（選抜）

〔戦評〕立ち上がり山口がPTで先行し、以後速攻、ポストで加点する。これに対し宮崎は、金子のロングシュートを中心に攻撃する。前半は山口の4点リードで終了。

後半に入り、宮崎は山口・福成寺にマンツーをかけ、リズムを崩そうとするが、逆に山口は石村のミドル、福田のカットインを中心に攻撃、また相手のミスをついて速攻により加点し勝利する。（中本）

得	〔山口〕		〔宮崎〕	得
0	中嶋	GK	坂田	0
0	高林		高橋	0
3	香川	FP	新坂	1
0	森本		金子	10
2	福田		東郷	2
6	石村	（審・友寄・大城）	佐藤	0
8	福成寺		日高	0
1	北辰		梅田	1
1	室重		後藤	0
0	河村		内村	0
1	小林		高佐	1
0	芦村		川野	0
22	(7)	PT	(6)	15

◆準決勝

沖　縄 18 〔11−9 / 7−7〕 16 山　口

〔戦評〕前半、山口のペースで試合が始まり、沖縄が比嘉を中心に盛り返し同点で終了。

後半、沖縄・比嘉のシュートが決まり出し、沖縄のペース。しかし山口は、その比嘉を完全にマークし、沖縄のミスから山口が得点を重ね再び同点。試合終了前、沖縄・古田の連続シュートで試合を決めた。（大城）

得	〔沖縄〕		〔石川〕	得
0	仲程	GK	中嶋	0
0	金城		高林	0
1	大湾	FP	香井	2
5	比嘉(恵)		森本	2
0	冨着		福田	1
1	池原	（審・高橋・森山）	石村	2
3	仲宗根		福成寺	6
6	比嘉(晴)		北辰	3
0	仲井間		室重	0
2	古田		河村	0
0	宮国		小林	0
0	長田		芦村	0
18	(1)	PT	(1)	16

石　川 26 〔9−10 / 17−9〕 19 東　京

〔戦評〕前半、パスミスの多い東京に対し石川は森のロングを中心にポスト、サイドと多彩な攻撃で着実に加点し、前半を17−9で折り返す。後半に入り、ディフェンスを固めた東京は、得意の速攻が出始めリズムをつかんだが、石川も少ないチャンスを確実に得点に結びつけ、26−19で勝利を握った。（森山）

得	〔石川〕		〔東京〕	得
0	岩井	GK	宇井	0
0	東方		関口	0
8	森	FP	湯野川	1
3	宮本		近藤	3
2	西田		竹吉	5
0	堀川	（審・上原・大城）	真名子	3
6	谷本		三村	4
1	阿部		執印	3
1	桜井		澤潟	0
0	谷下		本橋	0
3	松下		中村	0
2	石村		橋本	0
26	(4)	PT	(3)	19

◆3位決定戦

山　口 21 〔9−8 / 12−12〕 20 東　京

〔戦評〕開始から東京は全員の速い動きで得点を重ね、これに対し山口は、福成寺を中心にしたセットプレーで追い上げ、同点で前半を終了した。後半も22分まで一進一退の攻防をくり返したが、22、23分に山口・石村のロングシュート、福成寺のポストプレーで得点し逃げ切った。（高良）

得	〔山口〕		〔東京〕	得
0	中嶋	GK	宇井	0
0	高林		関口	0
2	香川	FP	湯野川	1
1	森本		近藤	2
1	福田		竹吉	7
4	石村	（審・金城・菅間）	真名子	2
11	福成寺		三村	2
1	北辰		執印	6
0	室重		澤潟	0
0	河村		本橋	0
1	小林		中村	0
0	芦村		橋本	0
21	(6)	PT	(3)	20

◆決勝

沖　縄 24 〔10−7 / 14−6〕 13 石　川

〔戦評〕立ち上がり沖縄のエース比嘉(晴)の意表をつくスタンディングシュート、比嘉(恵)のカットインシュートがたて続けに決まり波に乗る。石川も反撃にでるが、沖縄のスピードに遅れるゲーム展開。

後半、沖縄は益々スピードにのり、早いボール回しや速攻などで加点、比嘉（晴）と比嘉（恵）で18得点をあげ、一方的にリード、24−13で沖縄が勝つ。（大城）

得	〔沖縄〕		〔石川〕	得
0	仲程	GK	岩井	0
0	金城		東方	0
0	大湾	FP	森	2
7	比嘉(恵)		宮本	0
2	冨着		西田	3
0	池原	（審・森山・高橋）	堀川	0
2	仲宗根		谷本	7
11	比嘉(晴)		阿部	0
0	仲井間		桜井	0
1	古田		谷下	0
1	宮国		松下	0
0	長田		石村	1
24	(0)	PT	(1)	13

第6回女子ジュニア世界選手権

ソ連が優勝

〜日本は健闘及ばず最下位に〜

第6回女子ジュニア世界選手権大会は、10月23日から11月1日まで、デンマークにて開催された。

世界から15ヵ国が参加したこの大会、ソ連が地元デンマークを降して優勝。五連覇を飾った。日本は健闘及ばず最下位に終った。

〔順位〕

①ソ　連
②デンマーク
③東ドイツ
④韓　国
⑤ユーゴスラビア
⑥チェコスロバキア
⑦中　国
⑧ノルウェー
⑨スウェーデン
⑩スペイン
⑪西ドイツ
⑫ポーランド
⑬ナイジェリア
⑭日　本

〔戦績〕

▼第1戦（10月23日）

中　国32（16−7 16−9）16日　本

〔個人得点〕市来6、武津3、大林2、小林2、貞本1、小池1、白鳥1。

●…激しいDFと個人技の差が日本チームのミスを誘い完敗。日本側は激しい積極的DFで守り固めようと試みたが、個人技に優れる中国選手に守りを破られ、失点はミスからの速攻によるものが多かった。

▼第2戦（10月24日）

東ドイツ33（18−9 15−6）15日　本

〔個人得点〕市来5、白鳥5、篠原2、大林1、武津、小池1。

●…185cmの選手を筆頭に大型チームの東ドイツを相手に、前日同様、果敢な攻撃、積極的DFを試みたが、優勝候補東ドイツの前には歯が立たなかった。厳しいディフェンスチェックとスピードにミスを誘発し、速攻による失点が多く出てしまう。また、185cmの高さからのロングシュートに届かない。壁の厚さを感じる。

▼第3戦（10月25日）

スウェーデン25（12−12 13−9）21日　本

〔個人得点〕市来10、小池4、大林3、貞本2、篠原2、武津1、白鳥1。

●…このゲームを落とすと「なぐさめラウンド」行きになるため、全員必勝の態勢で臨んだ。並々ならぬ力を持っているスウェーデンに前半は同点。攻守に歯車がかみ合い互角の闘い。しかし、残り7分ぐらいまで同点機に痛いノーマクミスを連続、勝機を逸する。惜敗である。

結果として予選リーグ全敗に終わり、13〜16位争いの「なぐさめラウンド」に決定。3チームとの対戦により反省として、絶対的なものとして体格の差が明白であり、それにも増して、スピード、パワーが豊かであり、それが最大の敗因であろう。今回の遠征メンバーに加わる有資格者として170cm以上のプレーヤーの協力が得られなかったことに悔いが残る。

▼第4戦（10月26日）

ナイジェリア26（10−11 16−12）23日　本

〔個人得点〕市来8、武津3、森田3、小池3、川井2、白鳥2。

●…予選リーグ敗退の後遺症が残っており、緊張に欠けるゲーム展開になってしまった。180cmの大型アタッカーを有するナイジェリアは、この選手を中心としてスピードのある展開力を見せ、執ようにマークしたにもかかわらず、1人に13失点も許したことが敗因となってしまった。

▼最終戦（10月30日）

ポーランド30（15−14 15−9）23日　本

〔個人得点〕市来9、白鳥7、貞本2、小林2、武津2、大林1。

●…今大会の最終戦。ポーランドはBグループの4位とはいえ混戦のBグループはレベルが高く、苦戦が予想されたが、内容のあるゲームであった。

〔戦評はすべて鈴木孝八郎コーチの報告よりまとめました〕

選手たちの感想文から

白鳥　貴子

デンマークで開催された世界選手権。この試合は、ジュニア最大の試合。これに出場できただけでもすごくうれしかった。どのくらい日本のハンドボール、私たちのハンドボールが通用するのか、不安もあるけれども思いきりためしてみたかった。目標は、予選突破。絶対に本戦にいきたい。その思いを胸に、10月23日いよいよ予選が

開始された。
　私たちは、他の国よりも背が低く、小さいというハンディをどうして乗り越えるかが問題でした。小さい者が、背の高い外人を相手にどういった方法で点を取るのか。いざゲームになってみると、予想していたとはいえ、感覚的に慣れないため、とまどってしまいました。その上、どのチームもスピードがあり、ガンガンとせまってくる迫力は、とてもすごく圧倒されます。足や手の長さの違いは、慣れない私たちには、守るのにも難かしく、攻めるとなると、一段と難かしくなります。思いもよらぬところに手が出てきたり、私たちの上からシュートを打たれたり、特にキーパーともなると、本当にスピードがあって、ディフェンスをかわして、ゴールポストの隅を打たないと、なかなか入りません。そういうことが分かっていながらも、全敗という結果で終りました。本戦にいって、ソビエトや他のチームともっともっと試合をしてみたかったのですが、世界の壁は厚く、まだまだ私たちの力ではダメだということが分かりました。ことという時の粘り、ミスをしない、してもそれをカバーし合ったりという、自分たちが見習わなければいけない欠けている点が、まざまざと見せられた気がします。
　世界のハンドボールを見て、まだまだハンドの面白さを知らないような気がします。これから、この経験を生かして、またいつか、外人と試合ができたらいいなと思います。

梅津　直美

10月23日から11月1日まで、デンマークで行なわれた世界選手権に参加して、ジュニアのメンバーとして最後の大会、そして私にとって最後の大会でもあったので、三つの目標をたてて臨みました。
　一つは、本戦に出場するなぐさめラウンドには行かない。二つ目は、キャプテンとしてチームをまとめ、試合にはベストの状態で望めるようなムード作りをする。最後に、悔いの残らないプレーをする、という事でした。
　予選の対中国戦では、自分たちのミスから相手に得点を許し、自滅という形。2戦目対東ドイツ、初戦の堅さもとれ大きなDFにも善戦しましたが、敗れ、予選最終戦対スウェーデン。この試合に勝てば本ラウンド、負ければなぐさめラウンドという事で、多少のプレッシャーを持って臨みました。前半から後半の中盤まで、自分たちのミスもカバーしあい、良いゲーム展開となっていましたが、自分たちのペースがつかめず相手に連続をされてしまいました。
　この大会で、私の一番印象が深いのは、最終戦のポーランド戦です。今までの試合の中でとても動きが良く負けはしましたが、少しは自分たちの力を出せたような気がしました。
　世界選手権を経験して、世界の壁の厚さを感じました。体格では、出場チームのGKの高さには驚きました。170以下のプレヤーはほとんどいなく、高さ以外の反応の良さにも驚きました。体力的、精神的な面でのあまりにも差を感じました。この差を少しでも縮めて、日本でのプレーにこの経験をいかしていきたいと思います。
　貴重な経験をありがとうございました。

大林　恵子

本ラウンドに行く前に、ABCDグループの予選がありました。日本はCグループで、中国、東ドイツ、スウェーデン、日本、このようなグループになっていました。
　予選リーグの全試合で言える事は、自分たちのミスが多い、ミスから相手チームに速攻に行かれてしまう。守るディフェンスではなく攻めるディフェンスができなかった事、など自分たちの持っている力が全部出されていないまま予選リーグが終わってしまった。
　本ラウンドではなく、なぐさめラウンドでは、ナイジェリアと、ポーランドと行ないました。ナイジェリアとの試合は、メンバーから外れてしまい、出ていないのですが、外から見ていていつもとみんな違うように見えた。自分たちで自滅するようなプレーをしていると思いました。私たちがメンバーに入っていたらきっと同じ自滅をしているかもしれない。これだけは次の試合では、避けよう、避けなければいけないと次の試合にかけた。
　自滅した試合ではなく、今度こめ自分たちの本当のプレーが出たと思うポーランドに対してこのような試合ができてもっと前に何故出せなかったのでしょうか。私たちが甘かったのでしょうか。しかし、最後に良い試合ができてうれしかったです。
　私はこれが最後の遠征でした。ジュニアとして最後の試合でしたが、苦しい時も悲しい時もやめたい自分のチームに帰りたいと思った事も何度もありました。しかし、先生方について来て良かったです。こんないい勉強になったのは今までになかった事ですから、きっと忘れないと思います。この2年間、本当にありがとうございました。

市来　未央

10月23日から11月1日まで世界選手権大会がデンマークで行なわれました。この大会は、今までの大会とは違って経験のためというだけではなく、勝って目的を果た

すという事を目標に大会に臨みました。何試合かの中で色々な内容があり、私たちが勝負に対して甘い事など感じたし、思い切ってプレーする事が出来ない事など思いました。自分たちの気持ちで、勝つというものがあればそれなりの行動に出るだろうと思いますが、その行動がなかなか出せなかったように思います。外国の人たちはその感情をそのまま出していたので特にそう思いました。日本は外国の人たちと比べて感情を出さないので、他の人たちにはおとなしく見られていたと思います。

　私が一番印象に残ったのは、スウェーデンとの試合で、この試合に勝たないと本戦に行けないという事なので一生懸命頑張りました。前半から後半の中盤まで、1点を争うゲーム展開になりましたが、日本の攻撃が上手く行かなくなり、得点がストップし、ディフェンスで守り切れなかったため相手に連続得点を許したので、得点に差をつけられて追いつく事が出来ず、涙を飲む結果となりました。

　結局、勝つ事は出来ませんでしたが、色々な経験をしたのでこれから、経験を生かし頑張って行きたいと思います。ありがとうございました。

武津　優子

「本戦ラウンドでゲームを…」

の悲願もむなしく、15位という結果に終った。チームを編成して1年半。数回の合宿、遠征を重ね今大会に到り、何度となく他国と戦う日本チームの姿を想像し、頭の中をめぐらしたことか。

　1週間の国内合宿を終え、不安と闘志を胸に飛行機に乗り込んだ。

　『今まで取り組んで来た事を出せばいいんだ。思い切りやろう』と自分自身に言い聞かせたものの緊張した。

　第1戦目の中国戦。ダブルスコアで負けた。初戦ということもあり、レフェリーの笛にもとまどい、ミスが多かった。

　東ドイツ戦。前に立ちふさがる高い壁。高打点からのシュート。これぞ、まさしく〝小さい日本人〟を感じたゲームだった。必死に守り、走ったのにあっけない点差だった。

　予選ラウンドの最終戦。対スウェーデン。2戦落としていた私たちは、気合いを入れ直しゲームに臨んだ。セット、速攻、アタックDFとうまく展開していたものの、なかなか日本チームのペースに出来ず、同点で折り返した。後半に入り、退場が増え、ここ一発という所で得点に結びつかず、1点、2点とリードされていった。

　3試合を終えて、1勝も出来なかった事はすごい衝撃であり、世界をまざまざと知らされたという感じだった。

　その後の順位決定ラウンドでも奮わず、押せ押せのムードにありながら、後半に逆転されて、ゲームセットという形だった。なぜ勝てないのか考える。ただ単に実力が下だったというだけなのかとも思う。しかし、終始リードされていたゲーム展開だったわけではない。国際ゲームの経験が他国の選手に比べて、はるかに少ない。これもレフェリーの笛の感覚や、パスにせよ手が長いため、いつも通るものがカットされたり、日常そういう環境の中でハンドボールをしている人たちとの違いを感じた。世界選手権に参加して……世界は広く、強いという事だった。

　私は日の丸をつけてコートに立てた誇りと、自分たちの目標を完全にシャットアウトされたことを忘れずに、これからの生活に生かしていきたいと思う。

森田　初美

　私は10月23日から11月1日までデンマークで行なわれた第6回世界女子ジュニア選手権に参加し、世界と日本との違い、またその国々の特徴など、たくさんの勉強させてもらいました。日本を含め対戦した中国、東ドイツ、スウェーデン、ナイジェリア、ポーランドと、どの国もやはり世界選手権という名前に恥じないすばらしいチームばかりでした。

　国々ごとに個々の特徴を生かした攻撃、ディフェンスで、中でも一番印象強いのは優勝候補の一チームである東ドイツです。ディフェンスも高く、大きい体で一人一人がよく動き、攻撃もとても多彩で見ていてすばらしかったです。中でも45度をやっていた昨季の東ドイツリーグ得点王であるキャッツラーを中心としたずらしからセンターがディフェンスを引きつけ中に入り、クロスでエースであるキャッツラーがシュートというこの攻撃は、やはり迫力がありました。

　そして東ドイツと同じ最優力候補のソ連との対戦は見ものでした。どちらも体格でもひけをとらず、すばらしいゲーム内容でした。両方とも自分たちのプレーを思い切り出していました。前半ではどちらかというと挑戦者である東ドイツにソ連も押されぎみでミスがあり、どちらも取ったり、取られたりとおもしろい展開でした。この試合を見て、ただどの試合を見ても強く感じた事はボールへの執着心がすごいということです。キャッチミス、パスミスのボール、また、ゴールからはねかえってきたボールなど、どの選手も目の色を変え、「自分が」という気持ちで取りに行きます。私も客観的に見ていて、これが迫力を作るのだと感じました。外国の人たちと日本人というのは少し違うということ

も感じました。もちろん、日本の選手もフォローボールを大切にするということは外国の人と同じです。でも違う所は、感情を表に出さない所です。「私が」という気持ちが外人と比べ伝わるのがすごく少ないと思います。自分がプレーをしていてもこういう迫力がないと思います。

まず、日本人が他の国と試合をする時に体格では勝つことができないのは仕方がないと思います。そんな中で、日本が外国に勝つためにはやはり負けないという気迫と執着心が大切だと思います。このことを忘れずがんばりたいと思います。

小池美由紀

10月21日、午後1時15分に日本を出発して11時間半、日本チームはデンマークに着きました。デンマークに着くと、「とうとう着いてしまった。今から世界を相手に戦わないといけないんだな」という感じで、期待と不安でいっぱいでした。

この大会は、16チームが参加し、まず、四つのグループに分かれて試合をし、次に、各グループの上位3チーム同士で総当たりの試合をし、順位を決めるようになっていました。日本はCグループで、その他、東ドイツ、中国、スウェーデンがいました。とにかく1勝すればいいということで、目標をスウェーデン戦に定めました。

予選リーグの1試合目は中国とでした。初戦ということで緊張したのか、みんな固く、最初からミスが多く、自分たちのペースをつかめず、そのままズルズルいって結局32対16と負けてしまいました。全試合通して、この試合ほどミスの多い試合はなかったと思います。あせればあせるほどミスが出て連鎖反応を起こす。今思えば最初の試合のつまづきがあとあとまで響いたような気がします。

第2戦は東ドイツ。このチームには日本とは比べものにならない高さがあるため、上からは攻められず、DFの間からとか素早い動きで対抗しました。が、相変わらずミスが多く33対15でした。ミスがなければもっと善戦できたのではないかと思います。

そして予選リーグの最終スウェーデン戦です。これには勝って次へ駒を進めたいと思っていただけに、みんな最初から気合が入っていました。試合の方も一進一退で割といいペースで進み、前半は12対12で終わりました。後半も同じようなペースで途中まで進み、このまま行けば……と思ったんですが、最後の方で相手にもって行かれ25対21でした。終わったあとは気が抜けたというか落ち込みでした。せっかくいいペースで自分たちのプレーができていたのに……と思うとすごく悔やまれました。

予選リーグで最下位だった日本は、本戦ラウンドに出場することができず、結局最下位に終わってしまいました。

この大会でジュニアの活動は終わったんですが、最後の結果が結果だけに、この2年間何のために頑張ってきたんだろうと思うと少し情けなかったです。こういう大きな大会になればなるほど、ほんの小さなミスでも命取りになるということをわかってはいたものの、あらためて痛感しました。

結果は悪かったけど、参加できたこの世界選手権。そしてジュニアの一員としての活動は、自分にとって本当に幸運だったと思います。いろいろなことがありましたが、今となってはいい思い出です。

小松崎浩子

10月23日から11月1日まで、デンマークで開かれた世界選手権に参加しました。メンバーに選ばれた時はビックリしたし、まさか本当に参加できるなんて思っていなかったので、うれしいような不思議な気持ちでした。ただただ運が良かったとしか言いようがありませんでした。

23日から試合が行なわれ、1試合目は中国、2試合目が東ドイツ、3試合目がスウェーデンと予選が始まり、1試合目の中国戦は、緊張していたのかミスが目立ち、相手にペースをつかまれ、後半になってからやっと我がチームの本来の力を発揮してきたがすでに遅く、32対16に終わり、敗れてしまいました。2試合目東ドイツ戦は、私も出場したのですが、コートに入ると相手がとても大きく思えてとまどうばかりで、後半になってから我に返りプレーすることができました。そして予選最後のスウェーデン戦。前半からムードもよく、良いゲーム展開でした。12対12で前半を終わり、後半中盤でミスが多くなったが追い上げ、結局25対21で残念ながら負けてしまいました。27日にナイジェリア戦が行なわれ、完全に相手のペースで取って取られてのゲームで、26対23の結果で終わり、最終戦のポーランドとの試合は、大会最後の試合でもあり、気合の入った良いゲームでしたが負けてしまい日本は15位に終わりました。

今回の遠征に参加できたことは、高校生活の中でハンドボールを通じて最高の思い出にすることができました。また、世界のプレーを実際に見て勉強でき、この経験が今後の自分に絶対プラスになったと思います。

今回遠征に参加した全選手が感想文を寄せてくれましたが、誌面の都合で全部は載せられませんでした。悪しからず。

〈特別寄稿〉

オリンピックに出場した女子ハンドボール選手の体力の現状と今後の課題について

阿部徳之助　（自治医科大学）
竹 内 正 雄　（星薬科大学）
西 山 逸 成　（防 衛 大 学）

1．はじめに

日本体育協会スポーツ科学研究所は、ＪＯＣ、各競技団体の協力を得て、オリンピックに出場する選手たちの日本代表選手につき体力測定と健康診断の結果を報告している。[1)3)]

ハンドボール競技では、男子はミュンヘン（1972）以来連続出場し、女子はモントリオール（1976）、モスクワ（1980、不参加）大会に参加した。

これらの測定報告の資料をもとに、今後の体力を高めるための具体的な強化指導方策を検討・実施する改善の一助としたい。

2．方　　法

(イ)対象　オリンピックに出場する日本代表選手

(ロ)日時　オリンピック大会出場、またはアジア大会出場の約１ヶ月から３ヶ月前に測定実施している。

(ハ)場所　日本体育協会スポーツ科学研究所（1976．1980)、小松市（1985)、武庫川大学（1987)。

(ニ)測定項目

体格：身長、体重。

機能：背筋力、握力、反復横とび、垂直とび、最大酸素摂取量

3．結　　果

図１　女子オリンピック選手の体力（1976～1987）を示した。

身長についてみると、モントリオール（1976）162.5±4.5cm、モスクワ（1980)165.0±6.0cm、世界選手権（1976)167.5±4.3cm、ソウル・オリンピック予選（1987）167.5±5.5cmの値であった。モントリオール初出場の11年前と今回のソウル予選とでは、約５cmほど高くなり、統計的に有意な差を示した。（$P<0.05$)。

体重では、徐々に増加をし、モントリオールよりも今回は４kg増加している。

＜体　力＞

握力（右）についてみると、モントリオール38.0±5.0kgで、モスクワ39.5±4.5kg、世界選手権38.0±4.0kg、ソウル予選40.0±5.5kgとほとんど同じ値である。

また、握力（左）でも34kgから36kgの範囲にあり、増加はない。

背筋力では、モントリオール121±14.0kg、モスクワ116±13.0kg、世界選手権141.0±21.0kgと増加したが、ソウル予選では112.0±21.0kgで約30kg減少し、統計的に有意に低下している。（$P<0.01$)。

敏捷性をみる反復横とびでは、モントリオール40.0±4.0回、モスクワ43.0±4.0回、世界選手権51.0±4.0回で徐々に増加している。

次に垂直とびをみると、モントリオール48.0±

4.0cm、モスクワ45.0±3.0cm、世界選手権51.0±3.0cm、ソウル予選56.0±6.0cmと徐々に高まっている傾向にあり、これをモントリオールと比べてみると統計的に有意に高い値である。(P＜0.01)。

最大酸素摂取量では、モスクワ48.9±3.23 ml／kg／m、ソウル予選41.0±10.5ml／kg／min の値で、モスクワよりも有意に低かった。(P＜0.05)。

4．考　察

(1) 体　格

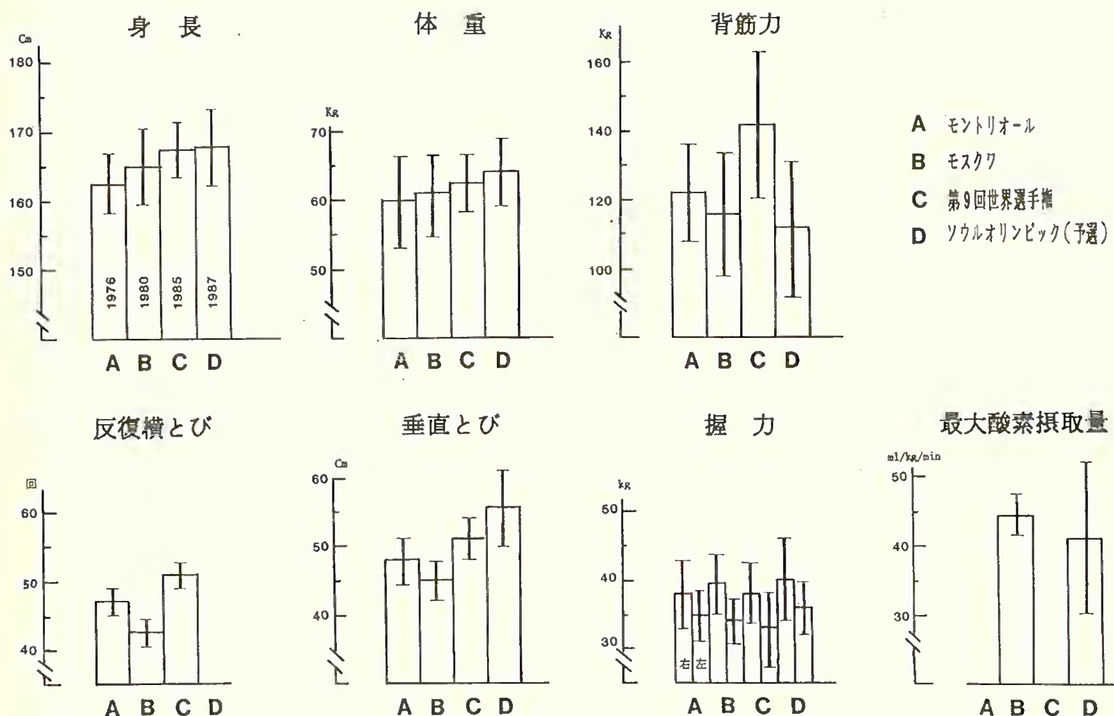
身長では、図１に示したとおり、モントリオール・オリンピックの初出場から、ソウル予選までの11年間で約５cmほど高くなり、大型化の傾向にあるが、世界のトップクラスのチーム平均をみると、ソ連チーム176.0±6.10cmと間もなく180cmに達しようとしている。女子でも男子選手並みの“高さとパワーのハンドボール”を展開している。当然なことながら、ハンドボールの競技特性からしても、長身者は有利な条件の一つでもあることから、日本チームの身長を170cm以上の大型化にすることが世界のトップクラスに入ることができるであろう。前回報告した男子の強化策と同じようなジュニア対策を早急に推進しなければならない。

(2) 体　力

＜筋力＞

握力＊前回の男子の報告のところで、握力の重要性について述べたが、握力と競技力との関係から左右を同じ値に向上してほしい。

図１にみられるようにモントリオールからソウル予選までほとんど変化はみられない。



女子オリンピック選手の体力(1976~1987)

さて、これを同じ種目の球技と比較してみると、バスケットボール（右）36.4±5.63kg（1972）、左33.7±6.67kg（1972）[1]、バレーボール（右）38.5±5.40kg（左）38.17 ±4.22kg（1984）[4]であり、ハンドボール選手はバレーボール選手とほぼ同じ水準で、球技種目としては優れているとはいえないが、今後、45kgを目標にしたトレーニングが必要といえよう。

次に背筋力では、世界選手権（1985）チームの水準は141±21.0kgで、今まででもっともよい値であり、ソウル予選チーム（1987）では112±21.0kgと29kgの低下がみられている。

世界のトップクラスにいる全日本バレーボール選手をみると、ミュンヘン・オリンピックチーム（1972）123.9±16.0kg、ロサンゼルス（1984）108.1±17.8kgの水準である。また、バスケットボール選手は、バレーボール選手とほぼ同じ水準を示しており、バスケットボール選手よりもやや高い傾向がみられる。

日本ハンドボール協会トレーニング・ドクター群では、背筋力を自己の体重の3.0倍[5]とすることを目標に筋力を高めることが全日本、ジュニア選手の競技力向上につながることを提唱している。その理由は、大型選手の強力なシュートフォームが、広背筋を充分に使っての体幹部のそりから生み出されていることや、日本選手が外国選手のような大型選手との身体接触時によくみられている相手をはじきとばす能力をもつことや、さらには身体のバランスを保つ必要からも上・下肢の筋力の強化が重要である。

下肢の筋パワーをみるために垂直跳をみてみると、図1にみられるように、モントリオール48.0±4.0cm、ソウル予選56.0±6.0cmとの比較では8cm増加し着実に筋パワーの強化が認められている。

日本女子バレーボール選手の垂直跳をみるとミュンヘン55.4±3.77cm、ロスアンゼルス55.71±3.32cmと55cm水準を示しており、また日本女子バスケットボール選手では、ミュンヘン49.8±3.78cmである。日本女子ハンドボール選手の垂直跳は、バレーボール選手とほぼ同じ水準であるが、ハンドボール競技では、世界のトップチームに長身の選手と対応するためには、より高いジャンプ力を身につけることが競技の展開に有利であることはいうまでもない。

最大酸素摂取量をみると、この値の大きい選手は全身持久力が高いことになるが、日本女子ハンドボール選手をみると、モスクワ48.9±3.23ml／kg／min、ソウル予選41.0±10.5ml／kg／minとかなりの低下傾向がみられる。

全身持久力を高めるトレーニングの計画実施面で、ハンドボール競技の特性面からみて、有酸素パワー、無酸素パワーを高めることを重視する必要があろう。

スポーツ競技において、最高能力を発揮するためには、精神×技術×体力の充実が必要である。この三者のバランスがとれて、はじめて競技力が向上することを再認識する必要があろう。

今後、指導者、選手、そして研究スタッフが一体となってハンドボール競技に必要な基礎体力、すなわち、走・跳・投を高めるためのトレーニングを積極的に実践することによって、はじめて世界水準にレベルアップできる可能性が見い出せるのではなかろうか。

〔文　献〕

1) 第20回ミュンヘン・オリンピック日本代表選手体力測定報告。昭和47年度日本体育協会スポーツ科学研究報告。1～98．1972．

2) 第21回モントリオール・オリンピック大会日本代表選手体力測定報告。昭和50年度日本体育協会スポーツ科学研究報告。1～107．1976．

3) わが国における代表的な競技選手についての健康診断・体力測定報告。昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告。1～47．1980．

4) 第23回ロサンゼルス・オリンピック大会日本代表選手健康診断・体力測定報告。昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告。1～62．1984．

5) 阿部徳之助他：手たき伏臥腕屈伸に関する実験的研究。昭和59年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告。27～29．1984

各地の記録から…

関東

第5回千葉県高校ジュニア選手権

（8月22日～26日／東邦大学付属東邦高校）

〈男子〉

▼予選リーグ

○aリーグ

木更津 27－12 渋谷幕張
市川 40－9 渋谷幕張
市川 33－11 木更津

○bリーグ

東邦 28－3 船橋法典
千葉南 12－6 船橋法典
東邦 24－6 千葉南

○cリーグ

我孫子 21－13 拓大紅陵
八千代 30－3 拓大紅陵
八千代 25－8 我孫子

○dリーグ

船橋西 15－13 京葉
二松沼南 31－5 船橋西
二松沼南 29－3 京葉

○eリーグ

佐原 20－12 柏陵
房総学園 21－10 柏陵
佐原 19－11 房総学園

○fリーグ

流山中央 19－11 市川西
東京学館 24－10 市川西
東京学館 20－14 流山中央

○gリーグ

東葛飾 22－16 士気
学館浦安 21－16 東葛飾
学館浦安 18－14 士気

○hリーグ

若松 24－22 松戸六実
松戸六実 20－10 市原
若松 30－6 市原

○iリーグ

船橋東 24－11 生浜
柏南 16－6 生浜
柏南 15－8 船橋東

○jリーグ

市立松戸 13－10 柏
船橋旭 25－8 四街道
柏 19－16 四街道
船橋旭 19－12 市立松戸
市立松戸 30－12 四街道
船橋旭 15－7 柏

○kリーグ

泉 25－16 沼南
国府台 18－8 沼南
国府台 16－13 泉

▼決勝トーナメント1回戦

東邦 17－10 柏南
八千代 17－13 若松
二松沼南 15－13 学館浦安

▼2回戦

八千代 24－8 船橋旭
市川 12－7 東邦
東京学館 17－13 佐原
二松沼南 15－6 国府台

▼準決勝

八千代 13－12 市川
二松沼南 13－11 東京学館

▼3位決定戦

市川 21－10 東京学館

▼決勝

八千代 15（8－5, 7－8）13 二松沼南

〈女子〉

▼予選リーグ

○lリーグ

東葛飾 14－10 泉
利洋 31－4 東葛飾
利洋 26－1 泉

○oリーグ

松戸秋山 21－3 生浜
佐原女 31－8 松戸秋山
佐原女 44－1 生浜

○pリーグ

御宿家政 28－1 若葉看護
御宿家政 12－5 柏南
柏南 21－0 若葉看護

○qリーグ

若松 13－12 士気
佐原 18－6 若松
佐原 16－7 士気

▼決勝トーナメント1回戦

昭和学院 41－3 東葛飾
佐原 21－17 渋谷幕張
柏南 15－6 松戸秋山
御宿家政 17－13 聖徳
東邦 19－4 若松

▼2回戦

昭和学院 27－3 柏南
佐原女 28－7 東邦
利洋 15－9 佐原
御宿家政 9－4 千葉明徳

▼準決勝

昭和学院 31－6 佐原女
和洋 13－3 御宿家政

▼3位決定戦

佐原女 15－9 御宿家政

▼決勝

昭和学院 17（9－3, 8－7）10 和洋

友部杯茨城県高校ジュニア大会

（9月19日／麻生高）

〈男子〉

▼1回戦

土浦湖北 18－6 勝田
伊奈 12－0 牛久
土浦工 13－10 麻生
藤代 15－12 結城一
藤代紫水 17－13 水戸一
土浦三 18－8 玉造工
笠間 16－16 江戸川学園（抽選勝）
八郷 25－14 波崎
竜ヶ崎一 30－11 岩井西
竹園 17－12 太田一
取手松陽 12－0 日立一
土浦日大 24－7 鉾田一

▼2回戦

土浦湖北 20－9 並木
伊奈 19－12 土浦工
藤代紫水 17－8 藤代
土浦三 12－0 古河三
水海道一 22－11 笠間
竜ヶ崎一 26－12 八郷
竹園 22－6 取手松陽
土浦日大 18－15 岩井

▼3回戦

伊奈 18－17 土浦湖北
土浦三 18－8 藤代紫水
竜ヶ崎一 棄権 水海道一
土浦日大 14－10 竹園

▼準決勝

伊奈 14－12 土浦三
竜ヶ崎一 17－17 土浦日大（抽選勝）

▼決勝

竜ヶ崎一 13（3－5, 10－4）9 伊奈

〈女子〉

▼1回戦

愛国学園 13－11 潮来
竜ヶ崎一 18－0 日立二
水海道二 13－6 土浦二
竜ヶ崎二 10－5 結城二

▼2回戦

愛国学園 19－10 藤代紫水
岩井 23－4 牛久
鉾田二 14－9 石岡二
竜ヶ崎一 19－6 磯原
水海道二 36－1 那珂湊二
藤代 16－14 太田二
土浦湖北 11－8 波崎
麻生 13－5 竜ヶ崎二

▼3回戦

岩井 18－14 愛国学園
竜ヶ崎一 12－10 鉾田二
水海道二 10－3 藤代
麻生 18－6 土浦湖北

▼準決勝
岩井 16－5 鉾田二
水海道二 16－13 麻生
▼決勝
水海道二 15（9－7、6－3）10 岩井

東海

静岡県中学校総体
（7月31日、8月1日／星陵高校）

〈男子〉
▼1回戦
吉原二中 22－7 大里中
岳陽中 15－13 両河内中
吉原北中 13－7 富士宮一中
鷹岡中 19－13 富士中
清水五中 19－12 元吉原中
▼2回戦
雄踏中 52－4 吉原二中
岳陽中 18－8 吉原北中
光明中 22－11 鷹岡中
静岡東中 13－11 清水五中
▼準決勝
雄踏中 26－8 岳陽中
静岡東中 17－7 光明中
▼決勝
雄踏中 33（16－1、17－0）1 静岡東中

〈女子〉
▼1回戦
清水五中 20－6 元吉原中
岳陽中 19－6 西益津中
吉原北中 7－6 小島中
静岡東中 19－9 富士中
▼準決勝
清水五中 20－5 岳陽中
静岡東中 12－9 吉原北中
▼決勝
清水五中 21（11－5、10－3）8 静岡東中

国体東海地方区予選
（8月29日、30日／本田技研鈴鹿製作所体育館）

〈少年男子〉
▼1回戦
静岡選抜 27－21 岐阜選抜
愛知選抜 23－12 三重選抜
▼決勝
愛知選抜 27（18－7、9－9）16 静岡選抜

〈少年女子〉
▼1回戦
三重選抜 18－9 岐阜選抜
愛知選抜 21－11 静岡選抜
▼決勝
愛知選抜 26（11－8、15－12）20 三重選抜

〈成年女子〉
▼1回戦
三重（本田技研鈴鹿）47－10 静岡（清商ク）
愛知（トヨタ自動車）42－27 岐阜（岐阜教員）
▼決勝
三重 27（16－9、11－8）17 愛知

〈成年女子〉
▼1回戦
三重（ジャスコ）57－8 岐阜（腕満会）
愛知（ブラザー工業）44－3 静岡（ポストクラブ）
▼決勝
三重 21（9－6、12－10）16 愛知

四国

国体四国地区予選
（8月29、30日／愛媛県松山市コスモ松山石油体育館）

〈成年男子〉
▼準決勝
愛媛選抜 29－23 高知ク
讃岐ク 46－28 池田ク
▼決勝
愛媛選抜 32（19－14、13－8）22 讃岐ク

〈成年女子〉
▼準決勝
愛媛選抜 30－14 高知ク
香川選抜 33－10 徳島選抜
▼決勝
香川選抜 25（16－9、9－7）16 愛媛選抜

〈少年男子〉
▼準決勝
愛媛選抜 28－19 香川選抜
徳島選抜 38－28 高知選抜
▼決勝
愛媛選抜 38（21－9、17－8）17 徳島選抜

〈少年女子〉
▼準決勝
愛媛選抜 29－23 高知ク
讃岐ク 46－10 高知東
▼決勝
愛媛選抜 34（19－4、15－7）11 徳島選抜

九州

藤田八郎杯争奪高校1年生大会
（9月5、6日／熊本県済々黌高）

〈男子〉
▼1回戦
松橋 27－7 熊本工
真和 20－6 牛深
宇土 28－11 東海大二
九州学院 31－0 八代高専
鎮西 41－5 玉名
済々黌 不戦勝 河浦
熊本第二 11－8 大津
熊本北 9－9 人吉
1 PTC 1
熊本水産 18－11 氷川
熊本工大高 31－24 御船
熊本 15－7 八代
熊本第一工 14－12 小川工
▼2回戦
熊本市立商 40－2 熊本工大高
松橋 19－13 天草
真和 22－22 宇土
3 PTC 1
熊本西 20－12 済々黌
九州学院 21－20 鎮西
熊本北 9－9 熊本第二
2 PTC 0
熊本水産 26－9 熊本
マリスト 31－1 熊本第一工
▼3回戦
真和 26－14 松橋
九州学院 29－17 熊本西
熊本市立商 22－6 熊本北
マリスト 18－7 熊本水産
▼準決勝
真和 18－10 九州学院
マリスト 19－15 熊本市立商
▼3位決定戦
熊本市立商 25－19 九州学院
▼決勝
マリスト 34（15－5、19－8）13 真和

〈女子〉
▼1回戦
九州女 18－6 球磨商
熊本女商 44－5 水俣
天草農 15－4 人吉
▼準決勝
松橋 32－8 天草農
熊本女商 23－4 九州女
▼3位決定戦
天草農 15－8 九州女
▼決勝
松橋 24（12－10、12－4）14 熊本女商

第42回熊本県民大会
（9月26、27日／場所不明）

〈男子〉
▼1回戦
不益城郡 27－8 芦北郡
天草郡 20－12 熊本市

本渡市 16－15 水俣市
菊池郡市 37－3 鹿本郡市
人吉市 26－7 牛深市
八千代市 17－12 宇土郡

▼2回戦
下益城郡 20－19 八代郡
天草郡 19－14 本渡市
菊池郡市 23－14 人吉市
玉名市 18－9. 八代市

▼準決勝
天草郡市 18－14 下益城郡
菊池郡市 26－15 玉名市

▼3位決定戦
下益城郡 25－15 玉名市

▼決勝
菊池郡市 15（7－6、8－6）12 天草郡

〈女子〉
▼1回戦
八代郡 8－4 玉名市

▼準決勝戦
熊本市 6－5 八代郡
下益城郡 11－1 本渡市

▼決勝
下益城郡 11（8－2、3－5）7 熊本市

第1回中高ふれあいハンドボールフェスティバル

設楽　孝治

県立藤沢北高等学校では、昨年より学校行事の一環として「中高ふれあいコンサート」と題して文化的な行事を実施してまいりました。これは、中高ふれあい教育の一助として、地元湘南地区の中学校・小学校の吹奏楽部を本校に招待し、合同発表会を実施するもので、各校間の友情を深め、互いの活動の励みとなる意味で、また、湘南地区の学校間の連携を深める意味でも有意義な行事となっております。

さらに今年度からは、同じような趣旨での湘南地区学校間連携事業の一助として、体育的な行事をと考えておりましたが、全職員の協力と湘南地区ハンドボール関係者の御理解により、「中高ふれあいハンドボールフェスティバル」を本校グランドにて実施いたしました。このような行事は全国的にも珍しく、準備の段階やフェスティバル当日は、関係者にもいろいろと御足労をおかけすることになりましたが、湘南地区の中学校チーム（男子8チーム・女子3チーム）を本校に招待し、1日中ハンドボールの試合を行うことによって、各チーム間の友情と協調あるいは、相互理解を深めると共に、技術的にも得ることも多く、参加選手や競技役員それに実施にあたって中心的な役割を果たした本校ハンドボール部員も含めて、楽しい秋の1日を過ごすことができました。

本校では、これからも中高連携事業の一環として、「中高ふれあいコンサート」「中高ふれあいハンドボールフェスティバル」の実施を予定しており、湘南地区学校間連携事業の一助として、地域に定着させたいと考えております。

ここに、「中高ふれあいハンドボールフェスティバル」の結果をお送りいたしますのでぜひ御覧下さい。

［開催要領］

主催　神奈川県立藤沢高校中高連絡協議会・ハンドボール部
後援　藤沢市学校間教育連携研究協議会
日時　昭和62年11月1日（日）午前9時30分開会
会場　神奈川県立藤沢高校運動場
種別　中学校男女

第1回中高ふれあいハンドボールフェスティバル試合結果

〈男子〉
▼1回戦
南林間 54－6 南瀬谷
大野 49－0 藤ヶ岡
横内 28－8 大和
大正 24－8 藤沢第一

▼準決勝
横内 29－16 大正
南林間 20－13 大野

▼決勝
南林間 17－10 横内

▼敗者復活戦
藤ヶ岡 7－10 南瀬谷
藤沢第一 18－16 大和

〈女子〉
▼リーグ戦
南林間 12－5 藤沢第一
藤沢第一 18－4 大野
南林間 31－3 大野

［順位］①南林間②藤沢第一③大野

第41回鹿児島県民大会

（9月26、27日／鹿児島工業高校）

〈男子〉
▼1回戦
鹿児島 27－21 川辺
姶良（ソニー国分）61－5 川薩（川内商工）
曽於（財部ク）32－23 揖宿
大島 56－24 出水（出水高）

▼準決勝
鹿児島 24－18 姶良
大島 40－31 曽於

▼決勝
鹿児島 26（13－12、13－13）25 大島

〈女子〉
▼1回戦
曽於（財部高）22－15 日置（串木野女）
鹿児島（鹿懇）33－22 大島（大島高）
姶良（ソニー国分）46－3 出水（出水高）
川辺（川辺高）18－10 川薩（川内商工）

▼準決勝
鹿児島 33－11 曽於
姶良 67－0 川辺

▼決勝
姶良 31（16－4、15－3）7 鹿児島

「日本ハンドボール史」購入の申し込みをお早めに

みなさますでに御承知のように、日本ハンドボール協会創立50周年を記念しての「日本ハンドボール史」が、今春無事完成致しました。

この冊子は、右の内容を御覧いただいてもわかりますように、日本ハンドボール界の50年の歩みを余す所なく御紹介するとともに、これまで埋もれていた様々なエピソードを紹介し、記録としても、読物としても大変興味深いものとなっております。

これまで日本ハンドボール界のために尽くしてこられた方々にも、また、今後日本ハンドボール界を背負っていただく方々にも、是非御一読いただきたいと思います。

〔「日本ハンドボール史」の主な内容〕

〔体裁〕 Ｂ５判　880頁　ケース入り

〔主な内容〕

- 日本ハンドボール50年の歩み
- 47都道府県協会史
- 全国連盟・団体の歩み
- ハンドボール史を彩るエピソード
- 全国大会の記録をすべて
- 海外の主要な大会（オリンピック、世界選手権、アジア大会など）の記録

〔定価〕　7000円

※次第に残り部数が少なくなってきておりますので、御希望の方は、なるべく早めに下記宛お申し込み下さい。

〒150東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
(財)日本ハンドボール協会
「日本ハンドボール史」係
TEL　03-481-2361

asics® TIGER®



アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

百個のグリップ力。アウトドア専用。

マルチコンソールが、グラウンドを確実にグリップする。初のアウトドアハンドボールシューズ、スカイハンド®SL。

アウターソールには、片足に100個以上のポイントを独特の形状で配置。アウトドアのグラウンドコンディションに確実に応えるハンドボールシューズの登場です。側面には傾斜をつけ、倒れ込みシュートを打ちやすく。かかと部を拡げて着地衝撃を吸収しやすい形状に。大空での空中戦を、十二分に意識した、初めてのハンドボールシューズです。

品番 THH 501 品名 スカイハンド®SL
メーカー希望小売価格 ¥9,200
カラー/ホワイト×レッド
　　　ホワイト×ネイビーブルー
サイズ/22.5～28.0cm

株式会社 アシックス

●お問い合わせは株式会社アシックス消費者相談課までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 ☎(078)303-2233(専用) (078)303-3333(大代)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 ☎(03)624-1814(専用) (03)624-2221(大代) ■本文中®は㈱アシックスの登録商標です。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二六九号
昭和四十年六月十(
第三種郵便物認可
昭和六十二年十一月二十五日 印刷
昭和六十二年十二月一日 発行

東京都渋谷 一ー一ー一
電話 代表（ 二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光

定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）